

INTEGRATED REPORT 2022

統合報告書 2022

WHY

私たちは、
何のために
事業を行うのか？



持続可能な地球、
安心・安全で豊かな社会を
創るために。

防災・減災対策など人々の生命・生活に直結するコトから、
人々の暮らしに潤いを与えるモノまで、前田工織グループをあげて取り組んでまいります。

基本理念

人と人の良いつながりが
すべての基本であり目標です。

経営理念

私たちは 独自の知恵と技術で
持続可能な地球 そして
安心・安全で豊かな社会を創るために
貢献してまいります。

HOW

私たちは、
どのように
成し遂げるのか？

モノづくりの本質である
「イノベーション」を追求し、
新たな市場を創出します。

私たちは事業領域の拡大のために、地方のモノづくり企業とのM&Aを積極的に行ってきました。
今後も様々な資本を「混ぜる」ことで、新たな価値を生み出し、社会の課題を解決していきます。



行動理念

「MDK五徳」と「仁」

1. 人も企業も「真っ直ぐ」生きよう。————— 義
2. 失敗を恐れず、無限[∞]の可能性に挑戦しよう。————— 勇
3. 現場へ出て、本質を見抜き、本気で変えよう。————— 信
4. どこにもないモノを、どこにもない方法で、創り出そう。————— 智
5. 人も企業も学び続けよう。————— 礼

「知行合一」 5つの行動を実践

前田工織は 混ぜる会社です

「人」と「技術」を混ぜる会社です
 混ぜると 化学反応が 起きるのです
 「イノベーション」は化学反応の「果実」
 世界一のイノベーターを目指し
 社会のあるべき姿 人間のあるべき姿を 追い求めていきます

人

仕事にも、人生にも、真剣に取り組んで、学び続け共に成長する。そこに人がいるから、新しいアイデアや思いを知ることができ、新しい考えを「混ぜて」変化していくことで、新たな「化学反応」を生み出します。

取り組み事例

社内イントラの整備

社内報誌 (Mixing!)、社内HP (Mixing! WEB) で、
 インナーコミュニケーションの活性化

東京本社のオフィス

グループ会社ワンフロア化で社員交流を促進

グループ会社間の製造現場応援

工場の繁忙・閑散期における稼働平準化で
 生産品質を安定

モノづくり

工場での活動をグループ内で共有し、現場の課題への取り組みや改善活動を「混ぜる」ことで、互いに刺激を与え合いグループ全体が“1製造(ワンチーム)”となり、当社グループ独自の“どこにもないモノ”を創造します。

取り組み事例

グループ製造部改善発表会

異分野のモノづくりの改善ノウハウを
 グループ会社内で共有

グループ安全衛生委員会

工場内の危険発生事案をグループ会社内で
 速やかに共有し、労働衛生環境の維持・向上

グループ会社間のエネルギー融通

太陽光の自然エネルギーをグループ会社内で
 有効活用し、脱炭素に向けた取り組みを推進

技術

当社がこれまで培ってきた繊維・樹脂の加工技術に捉われず、異分野が持つ様々な技術やノウハウを「混ぜる」ことで、新製品や新技術を創出し、社会課題の解決に貢献します。

取り組み事例

M&Aを行い グループ入りした会社の技術を融合

縫製技術

前田工織×未来テクノ×
 MAEDA KOSEN VIETNAM
 (製品: オイルフェンス)

塗装技術

前田工織×
 セブンケミカル

農業技術

北原電牧×
 グリーンシステム*
 (製品: 簡易牛舎)

繊維技術

前田工織×未来コーセン
 (製品: 不織布マスク)
 前田工織×未来コーセン
 ×未来テクノ
 (製品: アインレーションガウン)

ネットワーク

これまで当社が築き上げてきた全国各地の物流拠点、地域密着型の営業ネットワークを各地のグループ会社と「混ぜる」ことで、販売網の拡大だけでなく、その土地の実情に応じた提案を可能とし、迅速な対応・納品につなげます。

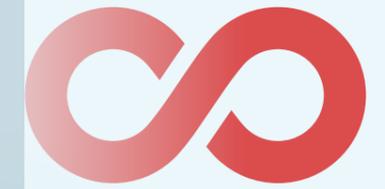
前田工織の販売ネットワーク
 全国15拠点を
 最大限に活用し、
 前田工織グループの製商品の
 拡販につなげる



*両社は2016年に合併し、未来のアグリに商号を変更しております。

成長の軌跡と これからの挑戦

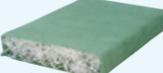
2022年、前田工織は設立50周年を迎えました。
当社グループは「人と人との良いつながり」を基本理念に掲げ、
たくさんの良い出会いを大切にしながら歩んできました。
そして、出会いを「混ぜる」ことで化学反応を引き起こし、
多くのイノベーションを生み出し続けています。
これからも新たな価値を創出し、持続可能な地球と
安心・安全で豊かな社会を創るため、挑戦と変化を続けてまいります。



関連ページ P.13-16 COOメッセージ
P.17-18 中期経営計画

1983年

- 剛毛製造開始



エンドレンマット



モノレン

1992年

- 接着アンカー製造販売部門開設



ボルトメイトTG



ボルトメイトHC

1985年

- テープテック(株)設立



1997年

- メンテナンス事業開始



炭素繊維シート



アラミド繊維シート

2002年

- 太田工業(株)を子会社化



OKオイルフェンス

2008年

- 太田工業(株)、日本不織布(株)を吸収合併

2009年

- マグネ(株)、(株)サングリーンを子会社化、2010年吸収合併



RZD_DBK_19in_R RID_DBK_R

2004年

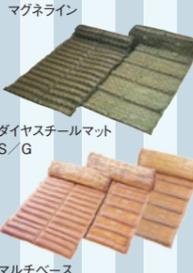
- ゼオン環境資材(株)よりプラスチック擬木、道路資材、土木資材事業を譲受



プラスチック擬木

2014年

- (株)ダイイチを子会社化



マグネライン
ダイヤスチールマット S/G
マルチベース

2015年

- (株)オガワテクノより事業を譲受し、未来テクノ(株)設立



自衛隊装備品

2016年

- (株)グリーンシステムを子会社化



園芸用ハウス

- 北原電牧(株)が(株)グリーンシステムを吸収合併、未来のアグリ(株)に商号変更
- テクノス(株)が(株)ダイイチを吸収合併、未来コーセン(株)に商号変更

2017年

- 前田工織キャピタル(同)設立

2018年

- (株)銚路ハイミールを子会社化



フィッシュミール

2019年

- 沖繩コーセン(株)設立

2021年

- エスケー電気工業(株)を子会社化



電牧器

- (株)セブンケミカルを子会社化



セブンSS

- 未来のアグリ(株)がエスケー電気工業(株)を吸収合併

1918年
前田機業場
創業

1972年
前田工織(株)
設立

1918

1972

1980

1990

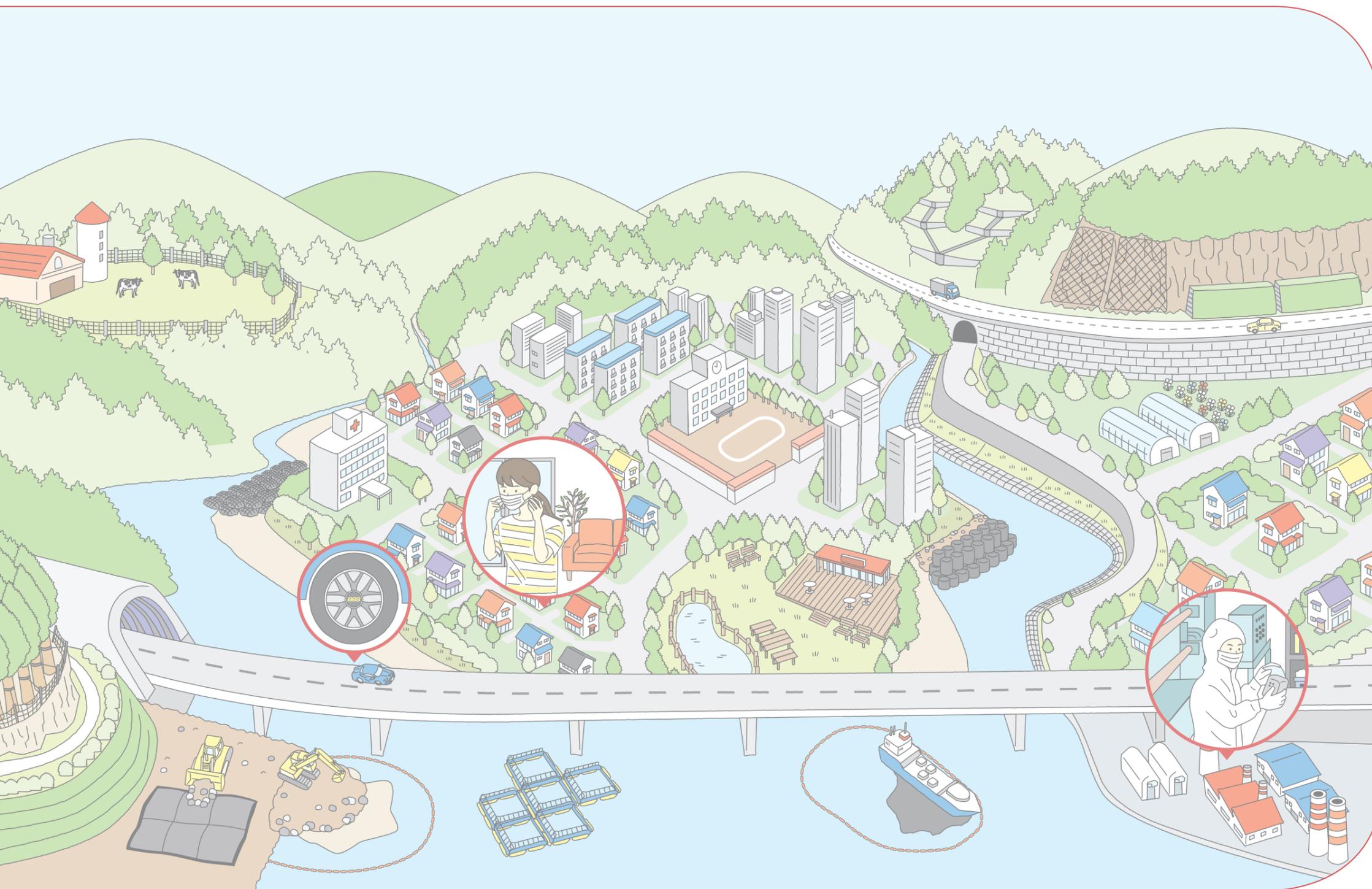
2000

2010

2020

中期経営計画
グローバルビジョン∞

※グラフは売上高の推移を示しております。



CEOメッセージ

P.11-12

COOメッセージ

P.13-16

中期経営計画

-MDKグループ中長期ビジョン-
グローバルビジョン∞
P.17-18

特集1

社会課題と 前田工織グループ

P.19-20

特集2

地方創生を原動力として

-BBSジャパン㈱-
P.21-22

コーポレート・ガバナンス P.23-24

役員一覧 P.25-26

社外取締役メッセージ P.27-28

コンプライアンス P.29

リスクマネジメント P.30

セグメント別概況

P.31-35

- ▶ ソーシャルインフラ事業
- ▶ インダストリーインフラ事業
- ▶ ヒューマンインフラ事業

価値創造の源泉

ESH&SDGs

P.36-42

▶ 環境への配慮 P.37-38

▶ 地方創生 P.39-40
-社会の一員としての責任-

▶ 人材戦略 P.41-42

財務・非財務サマリー P.43-44

連結財務諸表 P.45-46

会社情報 P.47

グループネットワーク P.48

グループ会社OUTLINE P.49-50

編集方針

本誌は、前田工織グループの事業を通じた社会課題の解決と企業価値向上の取り組みを、財務的側面・非財務的側面の両面からまとめた統合志向のレポートです。編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)の「国際統合報告フレームワーク」を参考にするとともに、写真や図表を多く用いることで視覚的に内容が理解できるように心がけました。

本誌を通じて、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、当社グループの持続的な企業価値向上のための経営戦略や企業活動の内容についてご理解いただければ幸いです。

報告対象の範囲：前田工織グループ11社 発行時期：2022年11月

将来見通しの記述について

本誌にある計画、戦略、業績予想などに関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づくものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、事業開発計画など不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境などが本誌の記述と異なったものとなる可能性があることをお含みおください。

※スミネットは、住友ベークライト㈱の登録商標です。 ※ネットパフファ工法は、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所と前田工織の登録商標です。
※F1はFormula One Licensing BVの登録商標です。 ※NASCARIはNational Association for Stock Car Auto Racing, Inc.の登録商標です。
※健康経営は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



代表取締役会長兼CEO

前田 征利

「混ぜる」思いを込めたインフラづくり

当社には、「混ぜる会社です」という企業メッセージがあります。「混ぜる」という言葉は、当社設立のきっかけとなった、繊維と土木を「混ぜる」ことで生まれた排水材^{*1}が原点です。この“ヘチマのような繊維の塊”から、当時の社会インフラを変える当社のイノベーションが始まりました。近年、新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ情勢など、世の中はどんどん変化しています。これまで守ってきた価値観や概念が変わることもあります。この変化に対し、我々が成長していくためには、新しい考えや我々とのちがいを取り入れ混ぜることで、柔軟に対応していくことが不可欠です。

そもそも“インフラ”とは、「人間が人間らしい生活を送るためには必要な大事業^{*2}」であるといえます。日本は国土の8割強が山岳であり、人が暮らすエリアと川や海が極めて近い距離にあります。さらに近年は、地震や台風などの天災や異常気象が頻発しています。そのような中で、当社グループは公共インフラなどの維持・整備事業を通して、すべての人々が安心・安全に暮らせる国土づくりに貢献してまいりました。また、衣食住や生活の質の向上に寄与する農業・産業分野、人々の“遊び心”を刺激し暮らしに潤いをもたらす自動車ホイールまで、「社会のあるべき姿」「人間のあるべき姿」を実現する基盤となるもの全てを「インフラ」と位置付け、多岐にわたる事業領域への展開を続けています。

この、「混ぜる」思いを込めたインフラづくりは、人と社会を今よりも豊かな未来へ、持続可能なものへと導いてくれると確信しています。当社は、設立当時から「持続可能な地球」を企業理念に掲げていますが、いわゆるサステナビリティというのは、地球環境にせよ、社会にせよ、企業活動にせよ、それを永続させていくために必要なことは何かを考え実践し続けることだと考えています。インフラという社会の基盤を支え、さらに、人々の生きる喜びを見つめ続ける当社グループにとって、成長し、進化し続けていくことこそが、環境や社会に対する責任を果たすことなのです。

社会に存在するあらゆる課題解決に貢献する企業グループとして、引き続き新たな価値を創出してまいります。当社グループの「これから」に、どうぞご期待ください。

^{*1}…当社製品「エンドレン」(当時)



^{*2}…塩野七生著「ローマ人の物語X」より

これからの時代に必要なのは、世の中の課題を“見つける力”。 課題を見つけていける前田工織グループを目指します。

2022年6月期の振り返り

決算期変更による9か月間の変則決算でしたので、単純に前期比較はできませんが、計画に対し売上高95.8%、営業利益78.2%の達成率と厳しい結果になりました。

過去経験したことのないスピードでの原材料価格高騰に対し、全社的に値上げやコストダウンが十分ではなかったことや、BBSジャパンにおいて、自動車メーカーの減産の影響を受けたことにより計画未達となりました。

やはり当社においても、コモディティ化している製品の値上げは苦戦しました。それゆえ今回のような厳しい状況の中で、メーカーとして高機能・高サービス・ブランド力といった強みがある製品の開発や差別化をより進めていかなければならないと、改めてモチベーションアップにつながる期になりました。

2023年6月期の業績見通し

かねてから取り組んでいる値上げやコストダウンの結果が出てくる期になります。さらに、ソーシャルインフラ事業においては国家プロジェクト、大規模プロジェクトがスタート

代表取締役社長兼COO

前田 尚宏

したり、BBSジャパンでのOEMの大型供給が本格的に始まったりと、業績を後押しすることを期待しています。

2021年9月に子会社化したセブンケミカルも順調に成長しており、これまでメインターゲットであった関東以外の地域、全国へ販路を拡大しています。今後もグループ会社とのコラボレーションを一層進めていきます。

また、BBSジャパンにおいては、2022年シーズンからF1®、NASCAR®へホイールのオフィシャルサプライヤーとなり、国内だけでなく海外でもさらにBBSホイールを見ていただく機会が増えることで、認知度、ブランド力アップにつながることを期待しています。

今期は中期経営計画「グローバルビジョン∞PARTI」の最終年度となります。売上高520億円、営業利益80億円、EBITDA110億円を達成すべく、しっかり総仕上げを行っていきます。

グローバルビジョン∞ PARTII&IIIに向けて

グローバルビジョン∞PARTII&IIIにおいて注力することは、次の3つと考えています。

①国土強靱化

国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が動き出し、2025年度までで約15兆円の事業規

模となる見通しです。「流域治水」「インフラ老朽化対策」「耐震補強」「斜面崩落防止対策」など、当社がこれまで培ってきた技術力で、大いに貢献できると考えています。

特に河川、海岸における防災対策やインフラ構造物の老朽化対策の分野では、当社の製品や工法は品質や機能、デザインにおいて様々な賞をいただいております。確かな知識と経験でシェア向上につなげていく所存です。

②新規事業

人々の「Quality of Life」(人生・生活の質、以下QOLと表記)を向上させる“コト”と“モノ”に注力していきたいと考えています。そのために、引き続き自社製品の開発を進め、M&Aも継続して行っています。すでにコロナ禍において不織布マスクやアイソレーションガウンの開発製造を行い、また、病院施設やリハビリセンターなどに当社の景観資材(合成木材)を使っていただく機会が増えていますが、ますます進む高齢化にも対応できるよう、MDKメディカルで培うことのできた知見も踏まえながら、ヘルスケア分野への展開を考えています。

また、昨今グランピング施設などアウトドアも注目されていますが、当社グループの未来テクノの高い縫製技術をアウトドア用品に活かす取り組みなども進めていきたいと思っております。

③海外展開

当社グループの海外売上比率50%を目指していきます。

世界でも特にアジア地域の災害発生件数は多く、フィリピンやインドネシアは日本同様に災害大国となっており、洪水対策など災害に強い国土づくりが急務となっています。

また、アジア地域における経済成長に伴い、不動産開発・インフラ需要がますます見込まれます。ソーシャルインフラ事業では、MAEDA KOSEN VIETNAMを拠点に、アジア地域の大型案件の受注につなげます。

インダストリーインフラ事業では、BBSジャパンのF1®、NASCAR®へのオフィシャルサプライヤーとして海外におけるさらなる認知度向上を図り、『地方から世界へ』をキーワードに、一地方の富山県高岡市からアジアへ展開していきます。また、環境への配慮が進むなか、より需要が見込まれるEV車・PHV車向けホイールの開発、販売ネットワークの拡充も進めていきます。

前田工織グループのパーパス

- 地方を元気に！
- 世の中の課題をモノで解決
- ESG+H & SDGs

今年、前田工織グループのパーパス(存在意義)を改めて定義しました。

『地方を元気に！』

私たちは地方企業が地方企業と一緒に盛り上げ、成

長していきたい、との思いのもと、これまで多くのM&Aを実施してきました。

今後もニッチな技術をもつモノづくり企業とのM&Aを引き続き実施していく所存です。さらに、PMI(経営統合)に力を入れていきます。開発・製造・販売の各部門が垣根を越えて混ざり、互いを深く理解することで、共同開発や顧客の共有につながり、互いにWin-Winになる体制をつくっていきます。

『世の中の課題をモノで解決』

様々な社会課題が次々と発生する中、スピード感をもってモノづくりの力で早期解決に貢献していくことが私たちの役割だと思っています。

企業は世の中の課題を見つけることと課題を解決することの2つで成り立っていると思います。これまでは技術力で課題を解決する力の方が求められてきましたが、今の時代、技術力はどこにでもあり、自社にその技術力がなかったら、他社と組んでもいい。これからの時代に必要なのは、世の中の課題を“見つける力”です。そのためには一人ひとりが「こういう世の中になってほしい」という想いや夢を持っていないと、ぼんやり生きていても気づかないと思います。課題を見つけていける前田工織グループを目指します。

『ESG+H & SDGs』

ESGに加えてHuman(=人財)がこれからの企業活動において重要と認識し、これとSDGsの実現は切り離せないものと考えています。特にHumanとして社員の育成が大事だと考えています。失敗から学ぶ「土木の寺子屋」と

名付けた社内研修や、社内表彰制度「MAEDA AWARD」「製造部改善発表会」をおおいに活用して、賞賛して感謝することを全グループで共有していきます。

サステナビリティに関する取り組みについては、新たにサステナビリティ委員会を設置し、基本方針や役割を明確にしました。CO₂排出量の削減のために、太陽光発電システムのグループ会社での運用開始、産業廃棄物のリサイクル強化、リサイクル原料を使用した製品づくりを本格的に推進します。また、メーカーとして環境配慮型製品づくりにこれからも注力していきます。

ステークホルダーへのメッセージ

当社グループの事業は、災害対策や獣害対策をはじめ、自動車の静音に関わるホイールや不織布などの既存事業も人々のQOLの向上を目指すためにあり、QOL向上に貢献する製品開発に取り組んでいます。世界はもちろん、日本においても地域、都道府県によって人々が思うQOL、価値観は異なっていると思います。それぞれの地域で当社の社員が動いて情報をキャッチし、既存製品などを地域に合わせてカスタマイズさせていく。QOLと地域密着は結局つながっているのではないのでしょうか。当社は、今後もこれまで培ってきた地域密着型メーカーという強みを発揮し、皆様のQOL向上に貢献できる企業であり続けていきます。

ステークホルダーの皆様には、引き続き当社グループへのご理解・ご支援を賜りたく、よろしくお申し上げます。



COO MESSAGE

社長メッセージ

MDKグループ中長期ビジョン

グローバルビジョン



当社グループは、M&A、海外事業の展開、人材育成の3つの柱を経営戦略として掲げており、その具体策として、2019年11月に中長期ビジョンである「グローバルビジョン∞(無限大)」を公表しました。その中期経営計画となるPARTI(2020年度～2023年度)では、「①既存事業の強化と新規事業進出」を重点施策として着手しております。

計画の骨子

- 1 既存事業の強化と新規事業進出
- 2 成長戦略としてのM&A活用
- 3 新たなマーケットを求めるためのグローバルネットワーク拡充

PART I

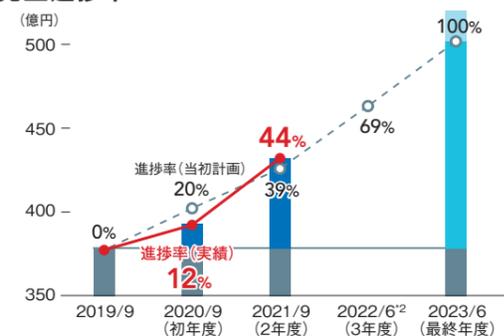
2020年9月期 (第48期) 2021年9月期 (第49期) 2022年6月期 (第50期) 2023年6月期 (第51期)

数値目標

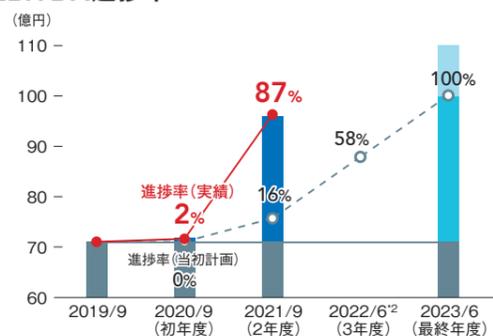
(単位：億円)

	初年度 2020年9月期 実績 (当初計画)	2年度 2021年9月期 実績 (当初計画)	3年度 2022年6月期*2 実績	最終年度 2023年6月期 計画 (当初計画)
売上高	393 (403)	432 (426)	369	520 (500)
EBITDA*1	71 (71)	96 (76)	70	110 (100)
営業利益	45 (45)	64 (50)	42	80 (80)
経常利益	46 (45)	63 (50)	43	80 (80)
親会社株主に帰属する 当期純利益	30 (33)	45 (37)	34	54 (54)

売上進捗率



EBITDA進捗率



*1 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれんの償却費

*2 2022年6月期は、決算期変更により当初目標の12か月間から9か月10日間に変更しているため、当初計画及び進捗率(実績)については記載していません。

1 既存事業の強化と新規事業進出

PART I | 重点施策

農業事業の拡大・強化

- エスケー電気工業(株)の子会社化及び吸収合併
2021年2月、電気牧柵、酪農用製品を取り扱うエスケー電気工業を子会社化し、同年9月に未来のアグリに吸収合併。両者の持つ情報、技術及びノウハウを融合し、農業市場でのさらなる事業拡大を目指す。
- (株)ファームノートホールディングスへの出資
2021年7月、酪農・畜産の生産性向上と効率化を図るクラウド牛群管理システムを提供するファームノートホールディングスへ出資。農業IoT、DXの推進による酪農・畜産業界の課題解決に貢献するとともに、当社グループとの相乗効果発揮のため業務提携も視野に。

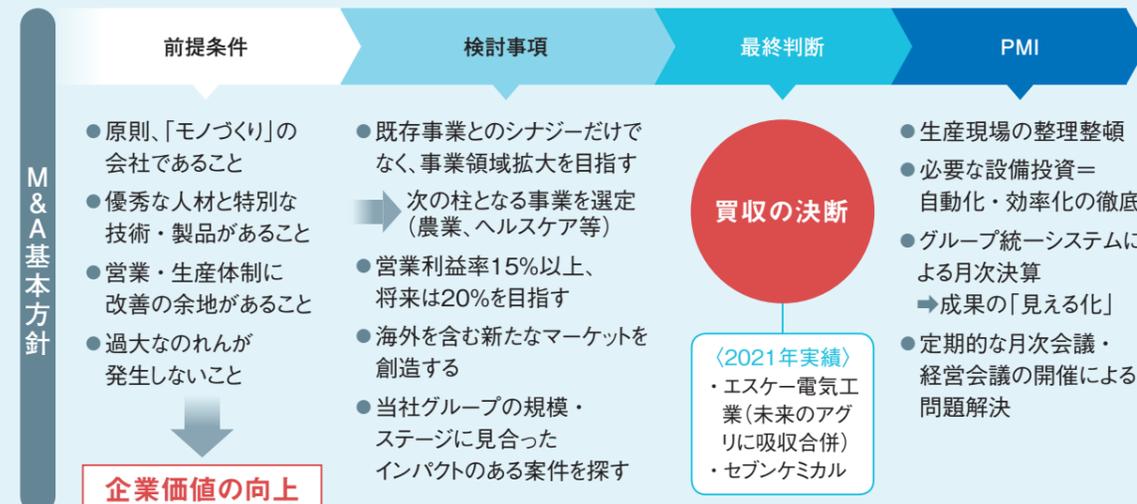
BBSジャパン(株)の設備投資効果

BBSジャパンでは、売上拡大を背景に2018年より総額約150億円の設備投資(新塗装工場の建設を含む)を実施。生産能力の増強目的のほか、生産ライン自動化・省力化による生産効率化、新工場建設による塗装ライン良品化率の向上を目的としており、順次業績に寄与予定。

その他の施策

継続的なM&Aを実践し、事業拡大を図る

2 成長戦略としてのM&A活用



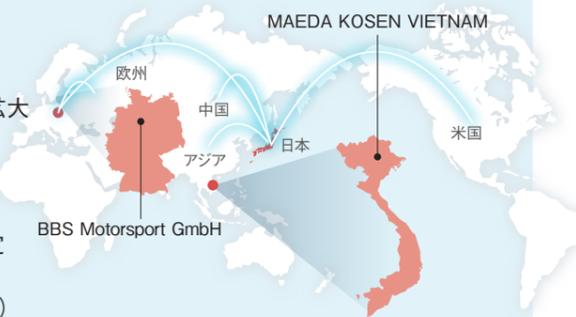
3 新たなマーケットを求めるためのグローバルネットワーク拡充

BBS Motorsport GmbH(BBSジャパンドイツ子会社)

- インダストリーインフラ事業(BBSホイール事業)の営業力強化のため、アジア、米国、欧州に営業拠点の設置を検討
- 従来の英国、ドイツ以外の海外自動車メーカーへのOEM供給先拡大
- 塗装工場の建設(2022年7月完成・稼働)

MAEDA KOSEN VIETNAM CO., LTD.

- 製造拠点の増強 → 工場増設(第5工場)、今後さらに拡大予定
- 生産品目の多品種化
- ASEAN諸国への営業強化 → 海外代理店網の拡大(業務提携)



社会課題と前田工織グループ

当社グループでは、「OODA(O:観察 O:状況判断 D:意思決定 A:行動)」の思考プロセスが浸透しており、様々な社会的課題に俊敏に対応することで、積極的な課題解決型提案を実践しています。

特に近年、自然災害が増加している中、当社は全国でも有数のジオテクスタイルメーカーとして、災害時の緊急対策(復旧)から補修・補強、防災・減災まで、様々なインフラ資材・工法を開発し、至るところで採用されており、国土強靱化に貢献しています。また、当社グループ社員の様々な能力・経験を有機的に「混ぜる」ことで、社員の強みを最大化し、社会ニーズに合致する最適な製品をタイムリーに提供しています。



軽石の被害状況②



軽石の被害状況①

沖縄総合事務局提供



OKシルトフェンス/オイルフェンス



漂着した軽石の早急な回収に際しても、回収器具の袋に前田工織のシートが採用され、沖縄県の海域での回収作業に貢献しました。

また、漁港などから回収されたり、陸に上がった大量の軽石は軽くて碎けやすく、風による飛散防止なども考慮され、袋詰めして保管するために前田工織のツートンバッグも活用されました。



軽石回収器具

沖縄総合事務局提供

軽石対策 (2021)

2021年8月に発生した小笠原諸島・福徳岡ノ場の海底火山噴火に由来するとみられる大量の軽石が、鹿児島県及び沖縄県の複数の港湾・漁港に漂流・漂着しているのが確認され、船舶の航行、漁業、観光等に対して深刻な被害が出ました。

生態系にも影響を及ぼしかねないため早急な除去が求められる中、沖縄コーセン・前田工織で取り扱うOKシルトフェンスやOKオイルフェンスが、軽石の流入防止や集積に貢献し、MAEDA KOSEN VIETNAMはオイルフェンスをフル生産で対応しました。

Topics 2

エゾシカ捕獲対策 (2021)



エゾシカの増加による農業や林業への被害が深刻化している北海道では、緊急対策としてエゾシカの個体数管理等の取り組みを行っています。

生体捕獲として活用される「囲い罠」は、銃器に比べて安全性が高く夜間の捕獲が可能で、一度に複数頭のシカを生体捕獲できるなど、捕獲したシカを食用等に利活用しやすいため多く使われています。

未来のアグリでは、ジビエとしての有効活用等を志向した生体捕獲用の資材へのニーズに応えることで、深刻な獣害対策に貢献しています。

● パネル式囲い罠

パネル式で簡単に設置でき、遠隔監視・操作等の機能に加え、捕獲したシカが、自ら運搬車に乗込みよう追い込み部にスロープを設け、ストレスをかけることなく運搬できるなど捕獲後の作業にも配慮した設計です。光があることで捕らえたシカが暴れて傷みやすいという問題も、内側をベニヤで遮光することで解決しました。



パネル式囲い罠



捕獲例

● 草地適用型囲い罠



囲い罠全景



ゲート部

被害の大半を占める牧草被害の対策として、銃器が使用できない夜間の出没に対応した捕獲ができ、シカの誘因が難しい非積雪期の草地で大量捕獲できる罠が求められる中、北海道立総合研究機構と共同で、草地適用型囲い罠を開発しました。

シカが見慣れた入手しやすい牧草ロールを壁として利用することでシカの警戒心を解くだけでなく、飼料として再利用可能な低コストで強度のある囲い部を形成。幅広で高さのある落とし扉を採用し、罠の入り口に効率よくシカを誘導するために、電気柵を活用しています。



これまでの課題解決実績の一部

東日本大震災 (2011)

除染廃棄物
保管用バッグを
開発

アフリカ豚熱 (ASF) ・ 豚熱 (CSF) 対策 (2020)

野生動物の
豚舎侵入防護柵を
開発

新型コロナウイルス感染症 対策 (2020)

- 当社の不織布を使ったアイソレーションガウンや避難所用間仕切りテントを開発
- 国産の自社製マスクの製造開始

地方創生を原動力として — BBSジャパン(株) —

2013年にワシ興産、ワシマイヤーを子会社化し、BBSジャパンとして前田工織グループの一員となりました。これまでM&Aによりグループ化してきた会社の事業領域とは一線を画す自動車業界への挑戦の理由と、BBSジャパンが前田工織グループに与えるシナジーとは？



1 前田工織とBBSブランドの出会い

地方創生による成長を目指して

2002年以降、15社を仲間に加え、事業領域を拡大し続ける前田工織は、グループのさらなる成長と地方創生の実現を目指しております。2013年に、鍛造技術による自動車用ホイール開発でF1®に採用実績を持ち、世界的に知られる自動車用鍛造ホイール「BBS」ブランドを擁する、ワシマイヤー・ワシ興産(BBSジャパンの前身)と出会いました。世界に通用する技術を持つ日本のニッチトップ企業と、当社の成長戦略のひとつであるM&A活用の方針が合致し、すぐにスポンサーとして名乗りを上げ、新たな事業の柱として前田工織グループへ迎え入れる運びとなりました。

新規事業への挑戦と「鍛造」との再会

繊維技術を土木・建築分野に活かした「ジオシンセティックス資材」を事業の中核とする当社が、なぜ自動車ホイール事業への参入を決めたのか？その背景には、社会インフラという既存の業界内にとどまることへの危機感がありました。企業は世の中の早い変化にキャッチアップし、新しい分野にどんどん入って成長していかないと生き残りません。そのため、当社グループの成長を「もう一段引き上げる」必要があると考えました。BBSブランドが持つ高度なモノづくりのノウハウと業界における知名度は当社グループにとって非常に魅力的であり、そのモノづくりの基本的な考え方を互いに活かして成長することができます。実は、会長の前田は大学時代に金属の分野を専攻し、塑性加工(材料となる金属に型を押しつけて目的の形状にする加工技術)の研究室に所属していたという経歴があり、自動車用鍛造ホイールは前田にとって初めての分野ではなく、その再会は運命的なものだったのです。

2 BBSジャパンが前田工織グループに存在する理由



シナジー効果が生み出す真のイノベーション

当社グループが追い求める「あるべき姿」のうち、社会インフラで「社会のあるべき姿」の実現に寄与するのと同じように、BBSジャパンは人間に不可欠な「遊び」を追求し、「人間のあるべき姿」に目を向けています。全く違った世界の異質な技術や人などを「混ぜる」ことで化学反応を起こし、既存事業の延長線上では生まれ得ない新しいモノを創り出す。私たちはそれぞれが本来の「イノベーション」と捉え、鍛造という素晴らしい技術と結合し、シナジー効果が生まれると考えています。

世界最高品質のホイールを作るBBSジャパンの鍛造技術に投資価値を見出し、さらなる飛躍のため、工場新設や製造設備の増設などの設備投資を行っています。かつて鍛造化は不可能と言われたF1®用マグネシウム鍛造ホイールを世界で初めて生み出し、強度の高さからホイールへの加工は困難とされた超超ジュラルミン鍛造ホイールを生み出してきたように、まだ世界に存在しないホイールを求め、挑戦を続けるBBSジャパンを重要な「成長ドライバー」として位置付け、当社グループは躍進を続けてまいります。

3 BBSに息づく「日本の」モノづくり

BBSホイールは、その熟練した手仕事に基づく品質の高さからしばしば「工芸品」と評されます。製品の形状・意匠を形づくる金型は全て、長年経験を積んだ職人が管理しており、成型したばかりのホイールの表面に残る細かいバリやエッジといった肌荒れを取るのもひとの手。そのこだわりと情熱を積み重ねて、品質・性能・意匠性の全てを兼ね備えた「世界最高品質」を生み出しています。この一人ひとりの「手仕事」を結集した日本のモノづくりの技術が「BBS」を世界のトップレース「F1®」へのホイールワンメイク供給というご縁へと導き

ました。モータースポーツを牽引する技術に裏付けされた「走り」を実現するこのノウハウは、そのままアフター市場向けホイールにも注ぎ込まれ、人々の「遊び心」を弾ませています。

昨今、自動車産業においては、自動運転、EV化、SUV車両をはじめ大口径タイヤの増加など大きな変革期を迎えています。時代の変化とともに求められるモノが変わっていかなく、「BBS」の最新の鍛造技術の根底にある「職人の手仕事」は伝統として受け継がれ、これからも人々の人生とともに走る「最高のお気に入り。」を提供してまいります。

〈前田工織グループ品質基本方針〉

すべては
世界最高品質のために

わたしたちは、安心・安全で豊かな社会づくりに
寄与する製品とサービスを
世界最高品質でお届けします



4 BBSブランドの沿革

- 独BBS社とワシマイヤー社が技術提携
- F1®用ホイール開発
- F1®フェラーリチームへの独占供給
- BBSジャパン(株)へ商号変更
- 超超ジュラルミン鍛造ホイールを開発

1980



2000



2020



- BBSブランド50周年
- F1®・NASCAR®へホイール独占供給

コーポレート・ガバナンスの概要

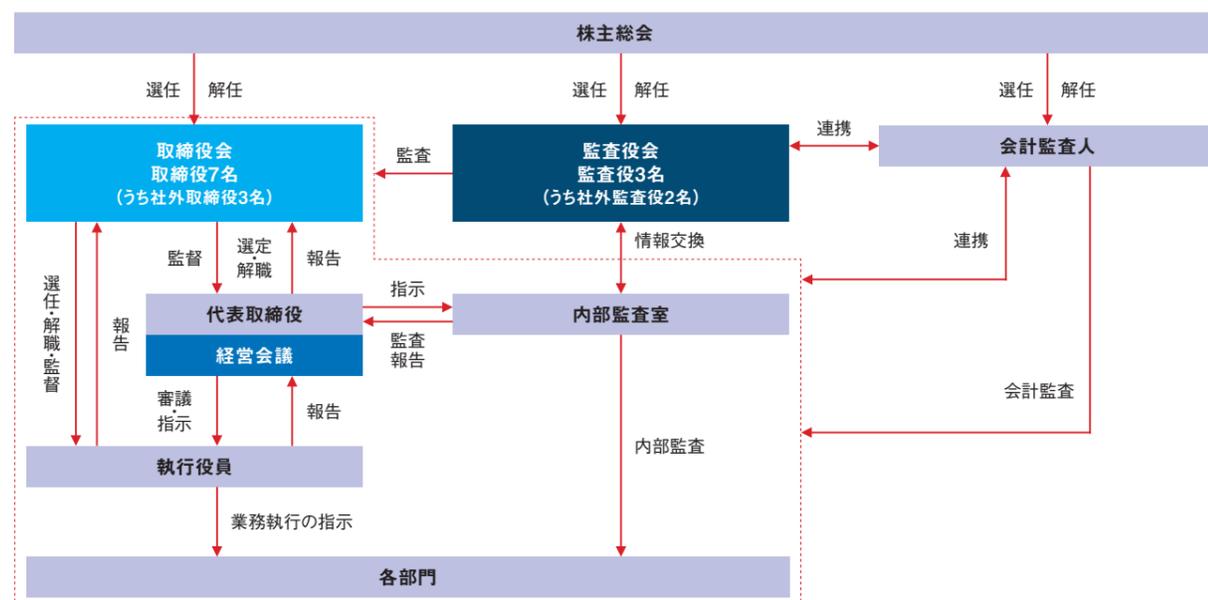
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンス(企業統治)に関する基本的な考え方は、行動理念の第1項“人も企業も「真っ直ぐ」生きよう。”に表れております。そのために当社は、「コンプライアンスの徹底」、「内部統制システムの充実」、「リスク管理体制の強化」等を通じて、経営の適法性、透明性及び健全性を確保することが重要であると考えております。また、事業活動を通じて公平で健全な企業経営を実施し、継続的な株主価値の向上のため、さらにはステークホルダーの皆様の期待に応えるためにもコーポレート・ガバナンスの充実が経営の重要課題であると考えております。

WEBページ コーポレート・ガバナンス報告書



コーポレート・ガバナンス体制



概要

機関設計	監査役会設置会社		
取締役の人数	7名(うち社外取締役3名)		
取締役会の議長	代表取締役会長		
監査役的人数	3名(うち社外監査役2名)		
取締役会の開催回数 (2022年6月期)	10回	取締役の平均出席率	100%
		監査役の平均出席率	100%
取締役の任期	1年		
執行役員制度の有無	有		
監査法人	清稜監査法人		

前田工織ガバナンス強化の取り組み



取締役会の実効性評価

当社では、経営環境への対応や経営の透明性を確保するため、取締役会の実効性の評価を毎年行い、取締役会として今後取り組むべき課題を認識することとしています。2022年度についての評価の結果の概要は以下のとおりです。

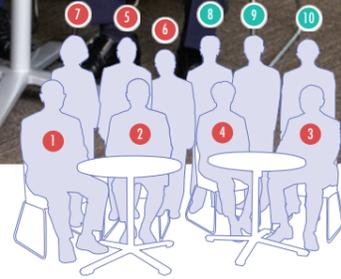
- 質問項目(骨子)**
 - 取締役会の構成
 - 取締役会の運営
 - 取締役会の監督機能
- 評価結果**
 - 取締役会の規模や構成メンバーは概ね適切である。
 - 取締役会の運営について、開催頻度や情報提供、審議時間、議案内容、審議項目数は適切である。
 - 取締役会の監督機能について、十分な発言・審議ができるよう、適切な意思疎通が図られている。
- 今後の課題**
 - サステナビリティを巡る課題への対応や多様性の確保
 - 政策決定の過程における資本コスト・収益力等の分析強化
 - 投資家動向に関する情報共有、役員間の意見交換の促進

役員の報酬等

当社は、取締役の報酬につきましては、2006年12月18日開催の第34期定時株主総会において決議された年額500百万円の取締役報酬限度内で、取締役会で個々の取締役の業績への貢献度合い等を総合的に勘案し、公正かつ妥当な額をもって基準報酬額を設定しております。固定報酬につきましては、当該基準報酬額を基礎とした年度改定により決定しております。

また、当社の業績と株式価値の連動性をより明確にし、株主の皆様との価値共有を高めることを目的とし、2014年12月18日開催の第42期定時株主総会において株式報酬型ストック・オプション制度の導入につき決議し、同制度を導入しております。さらに、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有することを目的とし、2018年12月19日開催の第46期定時株主総会において、株式報酬型ストック・オプション制度に代えて、上記固定報酬とは別枠で新たに譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議しております。なお、本制度に基づき当社の取締役(社外取締役を除く。)に対して譲渡制限付株式の付与のために支給する報酬は金銭債権とし、その総額は年額200百万円以内と定められております。監査役の報酬につきましては、株主総会の決議により定められた報酬総額の範囲内で、監査役の協議によって決定しております。

役員一覧



当社が取締役・監査役に特に期待する分野

役職	氏名	特に期待する分野、専門性								
		企業経営・ 経営戦略	技術・ 研究開発	営業・ マーケティング	財務・ ファイナンス	法務	リスク管理	サステナ ビリティ	IT・DX (デジタルトランス フォーメーション)	人事労務
取締役	① 前田 征利	●	●	●						●
	② 前田 尚宏	●	●	●	●	●	●			●
	③ 齊藤 康雄	●			●	●	●	●	●	●
	④ 秋山 茂信	●	●	●						
	⑤ 山田 勝	●	●	●						
	⑥ 眞弓 光文	●	●				●			
	⑦ 福田布貴子	●						●	●	
監査役	⑧ 三村 友男		●			●	●			
	⑨ 山川 均				●	●	●			●
	⑩ 舟木 幸雄	●			●	●	●			

1 代表取締役会長兼CEO 前田 征利 (まえだ ゆきとし)

1970年 4月 前田機業場入社
 1972年 11月 当社設立 代表取締役社長
 2013年 12月 BBSジャパン株式会社
 代表取締役会長(現任)
 2014年 12月 当社代表取締役社長兼CEO
 2015年 6月 株式会社エイチアンドエフ社外取締役
 2016年 9月 未来コーセン株式会社 代表取締役会長(現任)
 2018年 9月 当社代表取締役会長兼CEO(現任)

2 代表取締役社長兼COO 前田 尚宏 (まえだ たかひろ)

1996年 4月 帝人株式会社入社
 2002年 7月 当社入社
 2009年 12月 当社取締役 環境資材事業本部副本部長兼木部推進部長
 2012年 12月 当社常務取締役 経営企画室長
 2013年 9月 MAEDA KOSEN VIETNAM CO., LTD. 会長(現任)
 2013年 12月 当社専務取締役 インフラ事業部門長
 2014年 12月 当社取締役 専務執行役員 インフラ事業部門長
 2015年 8月 当社取締役 COO兼専務執行役員
 2018年 9月 当社代表取締役社長兼COO(現任)
 2018年 11月 未来のアプリ株式会社代表取締役会長(現任)
 2018年 12月 未来テフ/株式会社代表取締役会長(現任)
 2019年 9月 沖繩コーセン株式会社代表取締役会長(現任)
 2021年 9月 株式会社セブンケミカル代表取締役会長(現任)
 2022年 8月 株式会社銚路ハイミール代表取締役会長(現任)

3 取締役常務執行役員 齊藤 康雄 (さいとう やすお)

1979年 4月 株式会社福井銀行入行
 2004年 11月 株式会社PLANT入社
 2004年 12月 同社 専務取締役
 2013年 9月 当社入社
 2013年 10月 当社常務執行役員 経営管理本部長
 2013年 12月 当社取締役 経営管理本部長
 2014年 12月 当社取締役 常務執行役員 経営管理本部長(現任)
 2021年 8月 株式会社銚路ハイミール 代表取締役社長(現任)

4 取締役常務執行役員 秋山 茂信 (あきやま しのぶ)

1993年 1月 当社入社
 2004年 5月 当社営業本部 福岡支店長
 2010年 3月 当社環境資材事業本部副本部長兼構造物メンテナンス推進部長
 2010年 9月 当社執行役員 環境資材事業本部副本部長兼
 構造物メンテナンス推進部長
 2018年 7月 当社常務執行役員 インフラ事業営業本部長
 2021年 12月 当社取締役 常務執行役員 インフラ事業営業本部長(現任)

5 社外取締役 山田 勝 (やまだ まさる)

1969年 4月 三菱商事株式会社入社
 1992年 11月 昭栄化工株式会社社出向 管財人
 1998年 3月 同社 代表取締役社長
 2008年 12月 株式会社SHOEI代表取締役会長
 2019年 12月 当社社外取締役(現任)

6 社外取締役 眞弓 光文 (まゆみ みつふみ)

1992年 11月 京都大学医学部助教授
 1997年 2月 福井医科大学医学部 教授
 2003年 10月 福井大学医学部 教授
 2007年 4月 国立大学法人福井大学 医学部長
 2008年 10月 同 理事(研究・評価担当)・副学長
 2013年 4月 同 学長
 2019年 4月 同 名誉教授・特別顧問(現任)
 2019年 12月 当社社外取締役(現任)

7 社外取締役 福田 布貴子 (ふくだ ふきこ)

2000年 4月 福井テレビジョン放送株式会社入社
 2013年 4月 同社 副参事
 2015年 4月 同社 報道局報道番組部
 2016年 4月 同社 報道制作局報道部 副部長・アナウンス責任者
 2018年 4月 フリーアナウンサーとして独立
 2022年 9月 当社社外取締役(現任)

8 常勤監査役 三村 友男 (みむら ともお)

1998年 9月 当社入社
 2002年 3月 当社開発技術本部 技術部長
 2005年 4月 当社取締役
 2006年 9月 当社執行役員
 2013年 10月 当社常務執行役員 インフラ事業部門 開発製造本部長兼購買部長
 2016年 12月 当社取締役 常務執行役員 開発営業推進本部長
 2019年 12月 当社理事 インフラ事業営業本部長補佐兼製造本部長補佐兼
 購買部長
 2020年 12月 当社顧問
 2021年 12月 当社常勤監査役(現任)

9 社外監査役 山川 均 (やまかわ ひとし)

1988年 4月 会計検査院事務官
 1992年 4月 弁護士登録
 1993年 4月 山川法律事務所(現任)
 1996年 10月 裁判所調停委員(現任)
 2003年 4月 公認会計士登録
 山川公認会計士事務所(現任)
 2012年 5月 福井県労働委員会会長
 2014年 12月 当社社外監査役(現任)
 2019年 4月 弁理士登録
 山川特許事務所(現任)

10 社外監査役 舟木 幸雄 (ふなき ゆきお)

1972年 4月 株式会社福井銀行入行
 1997年 6月 同行 取締役
 1999年 6月 同行 常務取締役
 2004年 6月 福井工エム放送株式会社代表取締役
 2012年 6月 国立大学法人福井大学常勤監事
 2016年 4月 同 常勤参与
 2020年 10月 同 非常勤参与(現任)
 2022年 9月 当社社外監査役(現任)

社外取締役メッセージ

Q1

ご自身のことを教えてください
(自己紹介を含む、ポリシーや心がけなど)。

A: 私は福井テレビで22年あまり勤務し、キャスターとしてだけでなく記者としても政治、経済、災害報道など幅広い分野で取材に携わってきました。アナウンスから記者、カメラ撮影までローカル局ならではの文字通り体力勝負・気力勝負の日々でした。心がけてきたのは自らの成長を目指しながらも、常に謙虚な姿勢で丁寧に仕事に向き合うこと。努力こそ実績、実績こそ信頼がポリシーです。

Q2

前田工織の印象は
どのようなものですか？

A: M&Aによる多角化経営戦略で常に「化学反応」を追求し結果に結び付け、成長を続けることで地域や社会に貢献する。「課題解決型企業」を打ち出す姿勢に共感します。中でも近年甚大な被害をもたらしている自然災害への備えや復興に欠かせない土木・建築資材等の技術は、国内にとどまらず世界で必要とされています。私たちの暮らしに寄り添い、安全を守るため「技」で挑む絶え間ない努力に敬意を表します。

Q3

当社初の女性取締役です。
今後の抱負をお聞かせください。

A: 私は嘱託社員から正社員に登用され、管理職を経てフリーランスになり、業務委託、個人事業主と多様な働き方をしてきました。こうした経験を女性活躍の推進を目指す前田工織の取り組みに活かせるよう努めます。また日本のモノづくりの力を結集した「安全安心な暮らし」への貢献は、外に向けた発信を通じて特に世界の人口の半数を占める女性の共感を得られるに違いないと考えます。これまで培った経験を役立てたいと思います。



社外取締役 福田 布貴子

Q1

2022年12月で社外取締役に就任して
3年が経過しますが、これまでの活動を
振り返っていかがですか？

A: 社外役員として3年にわたりアドバイスをしている製造現場においては、整理・整頓・清潔・清掃・しつけという5Sを中心に改善も進み、市場変動の中原価低減は着実に進んでいます。また従業員各位のモチベーションも高く、SDGsの基盤も確かなものとなっています。M&A案件についても案件ごとに忌憚のない意見や賛否を役員会で発言させていただいており、妥当な結論も得られ、当社のガバナンスは十分機能しております。

Q2

社外取締役としての
今後の抱負をお聞かせください。

A: 原材料価格の高騰等、企業の経営環境は一段と不透明です。一方、当社においては、独自技術である繊維・樹脂の土木資材は国の支援や国土強靭化予算もあり概ね安定しており、今後の拡大も期待されます。またM&Aで買収した企業群も市場環境の変化に対応しながら収益力向上に奮闘していることが見てとれます。当社最大の強みは、俊敏な変化対応力はもとより、昨今失われつつある日本人の特長「律儀」「誠実」「勤勉」が確固たる企業文化として根底にあることです。M&Aや設備投資等の重要案件については、リスクと将来の収益力向上



社外取締役 山田 勝

の両面から引き続き発言、賛否を議論し、当社のガバナンスと健全な成長を後押しする所存です。

Q1

2022年12月で社外取締役に就任して
3年が経過しますが、これまでの活動を
振り返っていかがですか？

A: 社外取締役に就任して3年経ちました。大学人・医療人として企業経営とは無縁でこれまで過ごしてきた私ですが、自分が得意とする人材育成、産学連携による開発の推進、企業倫理を重視する企業のあり方などを中心に、社外取締役として貢献したいと考えてきました。これからも自分の適性を活かして社外取締役としての責務を果たしていきたいと思います。

Q2

社外取締役としての
今後の抱負をお聞かせください。

A: 他の役員、特に企業経営に関する豊富な経歴と実力を有する山田社外取締役と任務分担する中で、自分の特性を活かして、人材育成や産学連携による研究開発の推進を支援し、イノベーションの創生や持続可能な社会につながる企業活動が社会規範に則って推進されるよう、社外取締役としての責務を果たしたいと思います。



社外取締役 眞弓 光文

コンプライアンス

基本的な考え方

当社グループでは、経営上の重要課題の一つとして「法令の遵守」を掲げており、その企業活動において社会のルール全般について遵守した社会的責任や公共的使命を果たしております。法令・企業倫理遵守の観点に立ち、行動理念の第1項「人も企業も「真っ直ぐ」生きよう。」を実践しております。

コンプライアンス基本方針

- コンプライアンスの実践を、経営上の最重要課題の一つとして位置付け、コンプライアンス体制の整備を進める。
- 全役職員はコンプライアンス意識を高く持ち、高い倫理観のもと、事業活動において求められるあらゆる法令等の遵守と、誠実かつ公正で透明性の高い健全な事業活動を遂行する。

行動指針

- 1 交通ルールの遵守徹底を図ります。
- 2 コンプライアンス意識の高い組織を構築します。
- 3 ステークホルダーを尊重し、社会経済の健全な発展に貢献します。
- 4 安全で健康的な働きやすい職場環境を実現します。
- 5 反社会的勢力を排除し、不法行為及び不当要求行為を断固拒否します。

コンプライアンス委員会

当社グループ全体の企業倫理・コンプライアンスの推進・監督に関して議論を行う機関として、コンプライアンス委員会を設置しております。委員会ではコンプライアンスの推進に関する全社の方針を策定し、グループ全体にコンプライアンスの定着徹底を図ります。また、全体の方針やコンプライアンス違反発生防止対策及び違反発生時における対応について、議論を行っております。

コンプライアンス強化の取り組み事例

- 入社時のコンプライアンス研修(新卒・中途)
- 「コンプライアンスハンドブック」/「アクションカード」の配付
*コンプラホットラインの通報先及び緊急事態発生時の対応マニュアルを記載したカード
- 法務室によるコンプライアンス勉強会を年4回実施
- 安全運転の意識を高め、事故を未然に防ぐ対策として、社用車にテレマティクスシステムを導入・運用

「コンプラホットライン」(内部通報制度)

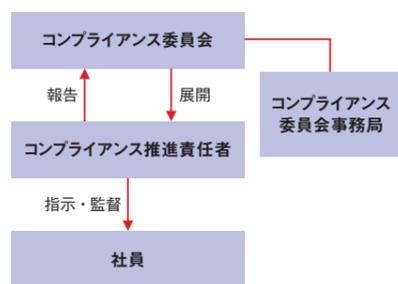
当社グループは、コンプライアンス違反に対して早期発見・是正を図るために、「コンプラホットライン」(内部通報制度)を設けております。すべての法令、社内規程その他の社内基準に違反、または違反のおそれがある(判断に迷う)行為を認識した場合には、社内(上司やコンプライアンス担当部署)または社外に設けた窓口で相談・通報することができ、匿名でも受け付けるなど、通報しやすい環境を整備しています。

ホットラインで受け付けた通報は、社内規程に基づき厳正に管理され、対象事案に関する秘密の保持や通報者及び調査協力者を特定させる情報の保護にも配慮の上調査を行います。調査により不正行為等が明らかになった場合は、厳正な処分を行うとともに速やかに是正措置及び再発防止の徹底など適正に対処します。

また、通報者の保護について、相談窓口で通報したことで不利益な取り扱いを受けないことを教育などを通じて周知徹底しています。

コンプラホットラインの通報先については、社員全員に配付される「アクションカード」に記載されており、いつでも確認できるように保管することによってより迅速・的確に機能するよう、意識啓発に努めております。

〈コンプライアンス体制〉



〈コンプライアンス相談窓口のフロー〉



リスクマネジメント

基本的な考え方

企業を取り巻くリスクが多様化・増大化している中で、当社グループではリスク管理を経営上の重要課題の一つと認識し、「リスク管理規程」に基づいてリスク管理を行っております。

リスクマネジメント基本方針

1 リスクマネジメントの基本目的

- 役員等々の身体・生命の安全の確保
- 財産、名誉、その他の利益保全
- 株主、取引先等利害関係者の利益保全

2 リスクの種類

外的要因	1 事業環境リスク 2 災害・社会犯罪リスク	金利・為替相場、資材価格、政治情勢、カントリーリスクなど 自然災害、人的災害、テロなど
内的要因	3 戦略リスク 4 事業運営リスク	経営・事業戦略、投資、研究開発など 製品品質、労災、コンプライアンス、情報漏洩、訴訟など

3 リスクマネジメントの行動方針

- 1 事業環境の変化を機敏に感知し、多様な変化に柔軟に対応できる組織体制を構築する。
 - 2 リスク顕在時の人命の安全確保、可能な限りの事業継続を図る。
 - 3 リスク管理を経営の重要課題と位置付け、グループガバナンスと経営の透明性を確保する。
 - 4 コンプライアンスの徹底とリスク情報の共有化により、リスク対応能力を向上する。
- これらの行動方針に基づくリスクマネジメントの継続的な取り組みにより、グループ全体でリスクを合理的かつ最適な方法で管理してまいります。

リスク管理委員会

社長を委員長として組成されるリスク管理委員会では、①当社グループのリスクマネジメントに係る基本方針の立案、②リスクアセスメントの実施及び効果測定、③重大リスクの対策立案及び効果測定並びに改善対策の立案を行っております。また、グループ各社で定める重大なリスクについて各部署と連携しながら日々改善に取り組んでおります。

重大リスクの対応事例

当社グループの主力製品である土木資材は、合成樹脂、合成繊維を主な原材料としております。その原材料の主成分である原油価格の上昇により、原材料価格が高騰し、その上昇分を販売価格に転嫁できない場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

現在、急速な円安やロシア・ウクライナ情勢等による資源価格の高騰を受け、当社グループにおける原材料価格にも大きな影響を及ぼしております。これらに対し、値上げの妥当性を精査しながら価格交渉を行い、その上でやむを得ず値上げとなった分については、販売価格への速やかな転嫁に努めています。また、製造コストの低減に努めることで粗利率の低下を徹底的に抑えるほか、海外を含めた産地や仕入先の分散による複数社購買を推進しております。

新型コロナウイルス感染症への対応と事業活動への影響

基本的な考え方と体制

当社グループでは、感染拡大初期に対策本部を速やかに立ち上げ、社員と家族の安全確保を最優先に感染予防と事業に対する影響の最小化に向けた施策を検討・指示するとともに政府や自治体が発信する対策情報を収集し、対策の実施を社員に速やかに周知しています。また、基本的な感染症対策の徹底とともに、時差出勤やテレワークを活用した在宅勤務などの対策を実施しています。今後も、感染状況に応じた柔軟な施策を実施し、危機を乗り越えるべく対応してまいります。

事業活動への影響

新型コロナウイルス感染症による当社グループの2022年6月期の事業活動への影響は、公共工事については、影響がないものと考えております。また、自動車用鍛造ホイール事業に関しましては、自動車部品不足による自動車メーカーの減産等の影響により生産稼働率が大幅に低下し、売上・利益ともに影響を受けました。

また、当社グループの製品である土木資材及びアルミ鍛造ホイールは、原油や金属などが主成分であることから原材料価格上昇の影響を受けております。当社グループでは、販売価格への転嫁や製造コストの低減を速やかに実現できるよう努めております。

ソーシャルインフラ事業

前田工織(株) / 未来のアグリ(株) / 未来テクノ(株) / 沖縄コーセン(株) / (株)セブンケミカル / (株)釧路ハイミール / MAEDA KOSEN VIETNAM

「土木」と「繊維」を融合させたジオシンセティックス技術を筆頭に、力強い成長を継続

主要な事業内容

- ジオシンセティックス環境資材、酪農・農業資材、獣害対策製品、不織布、帆布生地製品等の製造・販売
- 園芸施設の設計・施工・販売
- フィッシュミール・魚油の製造・販売
- 外壁用の防水材、保護・仕上げ材の製造・販売

※「ジオシンセティックス」とは、土木工事等に使用される高分子材料の製品の総称です。

Business Highlights 事業ハイライト

多数の国内シェアトップクラス製品



袋型根固め工法用袋材 (ポトルユニット、パワフルユニット)



耐候性大型土のう (ツートンバッグ) 他多数

M&A実績数

※ソーシャルインフラ事業のみ

12 件

(2022年11月時点)

トータルパッケージでの営業力

(全国の営業所数：34か所)

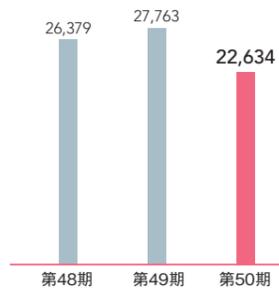
Overview 2022年6月期の概況

当社の公共工事業においては、盛土補強資材の販売が伸び悩んだものの、景観資材、海洋土木製品、斜面環境製品等の販売が堅調に推移しました。利益面については、原材料価格が高騰し、事業の性質上、販売価格に転嫁するのに時間を要することから、粗利率を押し下げる結果となりました。

その他、新型コロナウイルス感染症対策関連の医療・衛生資材の受注が確保できた不織布事業や、獣害畜産関連製品の受注が伸長した未来のアグリ、一部大型案件の受注や海洋土木製品の販売拡大が奏功した未来テクノにおいては、それぞれ売上・利益とも好調に推移しました。

売上高

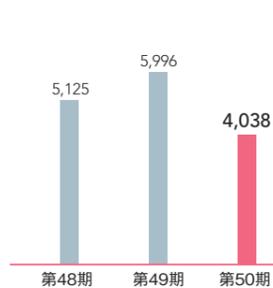
単位：百万円



※第50期は決算期変更の経過期間となるため、従来9月決算であった会社は9か月10日間、従来より6月決算の会社は12か月間を連結対象期間とした決算となっております。

営業利益

単位：百万円

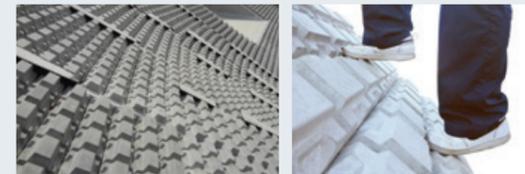


Topics

シビックマット 防草・防災タイプ グッドデザイン賞受賞

シビックマット 防草・防災タイプは、ため池や農業用水路の法面保護、河川の護岸等に使用されるコンクリートブロックマットです。近年、ため池での死亡事故は年平均23.4件発生しており(2011年～2020年)、注意喚起だけに頼らない安全対策が求められています。本製品は、ブロックを手で掴んだり足を掛けたりしやすい形状にすることで、万一落水しパニック状態であっても直感的に這い上がりやすいデザインを追求しました。また、ブロック同士の隙間を最小限にしたことで防草効果を兼ね備え、美しい幾何学模様で景観にも配慮しています。

これらが評価され、本製品は2022年度のグッドデザイン賞を受賞しました。当社グループでは、今後も社会課題の解決に向けた製品開発に注力してまいります。



Interview

補強土排水推進部技術グループで、主に補強土工法の技術的な支援と工法の改善・改良を担当しています。

2020年度～2021年度の約2年間にわたり、国土交通省国土技術政策総合研究所に交流研究員として出向していました。出向期間中は、道路土工構造物等の性能検証法や維持管理の合理化に関する研究に携わりました。近年の豪雨などによる災害の頻発化・激甚化が指摘され、安心安全な構造物がより求められることは漠然とは理解していましたが、出向期間中に国のインフラ整備の考え方に直接触れることで、何を期待されているのか、何を求められているのかについて、多くの知見を得ることができました。

今後は、出向期間中に学んだことを活かして、主に担当している補強土工法の開発や改良を進め、よりよい社会インフラ整備の一翼を担っていきたく考えています。

前田工織 補強土排水推進部 技術グループ 松本 優明



ソーシャルインフラ事業 × SDGs

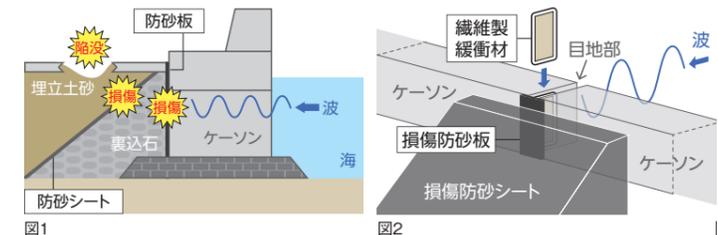
ケーソン目地透過波低減法 ネットバッファ工法®

ケーソン(防波堤などを作る際に使われる巨大な箱状のコンクリート)を海中に並べて作られた護岸・岸壁では、ケーソンの隙間(ケーソン目地)を透過する波の繰り返し作用によって、地に設置された防砂板や防砂シートが損傷し、埋立土砂が吸出されて地表面が陥没した事例が多数報告されています。(図1)

ネットバッファ工法®は、ケーソン目地に繊維製の緩衝材を挿入し、透過する波を大幅に減衰させ外力を低減させることで、防砂板及び防砂シートの長寿命化を図り、護岸・岸壁の陥没事故を防止する工法です。(図2)

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所と前田工織の共同研究により開発された本工法は、第3回 インフラメンテナンズ大賞 特別賞、第22回 国土技術開発賞を受賞しており、社会からも高い評価を受けています。

前田工織は、2022年7月に国土交通省港湾局により創設された「みなとSDGs(パートナー登録制度)」の第1回登録事業者として登録されています。



施工の様子

インダストリーインフラ事業

未来コーセン(株) / BBSジャパン(株) / BBS Motorsport GmbH

高品質・高付加価値な製品を提供することで、
社会の皆様の「豊かな暮らし」の実現に貢献

主要な 事業内容

- 自動車用軽合金鍛造ホイールの製造・加工・販売
- 高性能ワイピングクロス等の製造・販売・受託加工
- 衣料や各種産業資材用の燃糸及びニットの製造・販売

Business Highlights 事業ハイライト

成長投資額

186.4 億円

(直近5期設備投資額)

未来コーセン

一貫生産体制
(糸加工から最終製品まで)

BBSジャパン

世界最高レベルの
鍛造技術

BBSジャパン

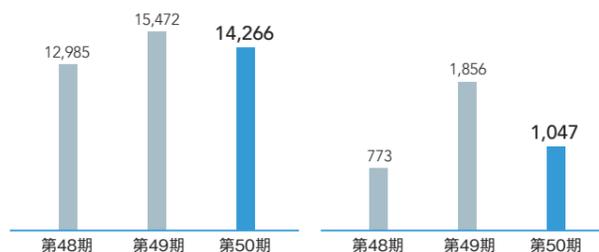
F1®・NASCAR®
ホイール独占供給

Overview 2022年6月期の概況

未来コーセンにおいては、半導体市況の回復や精密機器製造向け製品の受注確保により、主力のワイピングクロスの上売が順調であったことから、売上・利益とも堅調に推移しました。

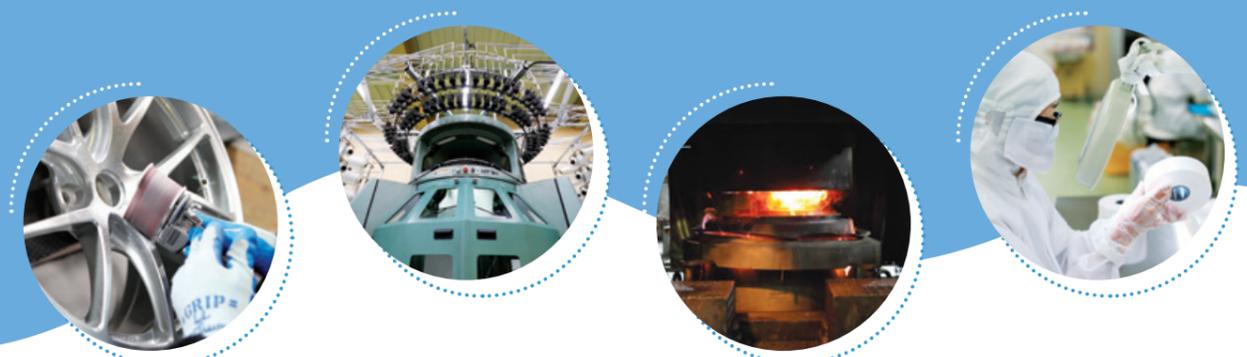
また、アルミ鍛造ホイールを製造・販売するBBSジャパンにおいては、アフター市場向け製品が好調に推移し、同社のドイツ子会社の業績が伸長したものの、自動車メーカー減産等の影響により生産稼働率が大幅に低下したほか、アルミ原料価格の高騰による影響や、運賃等の販管費が一時的に増加したことにより、売上・利益とも伸び悩む結果となりました。

売上高
単位：百万円



※第50期は決算期変更の経過期間となるため、従来9月決算であった会社は9か月10日間、従来より6月決算の会社は12か月間を連結対象期間とした決算となっております。

営業利益
単位：百万円



Topics

設備投資と実施状況

BBSジャパン

ドイツ子会社の新塗装工場が稼働開始

BBSジャパンのドイツ子会社であるBBS Motorsport GmbHにおいて新塗装工場が完成し、2022年7月より稼働開始しました。新工場には最新鋭の設備を導入し、品質の向上と自動化・省力化による生産性の向上が可能となりました。この新工場を大いに活用し、より幅広いニーズに応えてまいります。



未来コーセン

新規仮燃機導入

金沢工場に生産用の大型仮燃機と試作用の小型仮燃機の2種類の仮燃機を新たに導入しました。仮燃機とは、原糸に燃りを掛けた上で熱を加え、燃りを戻す工程を連続で行う加工で、生地にした際にふんわりとした風合いや弾力性、伸縮性などの様々な機能を付加することができます。新台導入により、より高品質・高付加価値な製品の生産性向上と、試作用仮燃機の導入による製品開発のスピードアップを図ります。

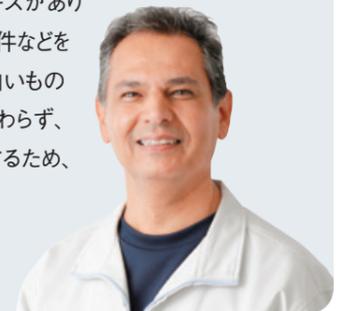


Interview

開発技術部の開発グループでニット製品の開発を行っています。母国のイランの大学で繊維工学を学んでいましたが、日本の文化(特に〇〇道)に非常に興味があったこと、先進国の日本の大学で最新の研究がしたかったことから来日しました。

ニット製品は、アパレル、ファッション、スポーツなど幅広い分野で製品化され、様々なニーズがあります。30年以上ニットに携わってきた私にしかできないこともあると思います、原材料や組織、条件などを見直しながら社会のニーズに合った製品の試作品づくりを行っています。時々全く違う面白いものができることもあり興味は尽きません。これからも、原材料や使用機械、プロセスなどにこだわらず、新しいモノを創りだし、今まで存在しなかった製品、人々が使って幸せを感じる製品を開発するため、日々努めていきます。

未来コーセン
開発技術部 開発グループ
プーレエスファンディアリ ファルシッド



ヒューマンインフラ事業

人生100年時代と言われる中で、
より人間らしく生きるための生活の質の向上に貢献

主要な
事業内容

●ヘルスケア関連製品の製造・販売

Overview

2022年6月期の概況

医療機器の開発・製造・販売を目的とするMDKメディカルにおいて、医療機器の治験にかかる費用を計上したことで、営業損失は107百万円となりました。なお、2022年3月18日付で、MDKメディカルの全株式等を譲渡しております。

また当社においては、景観資材(合成木材)の医療・福祉施設での使用や、マスク以外のメディカルプロダクツの開発など、ヘルスケア分野への展開を進めております。

グループ Topics

グループ各社のホームページをリニューアル

当社グループの原動力となるのが、世界に誇れる技術やノウハウを持つ地方の「モノづくり企業」です。各社の事業や強みをより多くの方々に知っていただけるよう、ホームページを順次リニューアルしています。

未来テクノ



初めて訪れた方にも事業内容がわかりやすく伝わるよう、写真を主役としたデザインと、シンプルで具体的なキャッチコピーにこだわりました。未来テクノの強みである高度な縫製加工技術や、多種多様な案件に対応できる充実した工場の設備などを詳しく紹介しています。また、陸上自衛隊装備品製造で培った技術を活かして制作するオリジナルブランド「MI」シリーズのオンラインショップも併設しており、一般の方にも直接ご購入いただけます。



<https://www.mirai-techno.jp/>

釧路ハイミール



トップページには工場の風景とともに自然豊かな釧路の景色を大きく掲載し、地域に根づく企業としてのこだわりをアピールしています。また、釧路の海と魚をイメージしたイラストを用いることで、親しみやすく可愛いデザインに仕上げました。釧路近海の新鮮な魚を用いる素材へのこだわりや、品質管理を徹底したフィッシュミールの製造工程など、釧路ハイミールの事業をわかりやすく紹介しています。



<https://www.kushiro-highmeal.co.jp/>

未来コーセン



テクノス(株)と(株)ダイイチの2社が合併した未来コーセンのホームページは、これまで各社の事業ごとにページが分かれておりました。これをひとつにし、内容を一新することで、訪問した方に糸加工から最終製品までの一貫生産体制がわかりやすく、より『繊維の可能性』を感じていただけるサイトになりました。お客様に未来コーセンがもつ技術・設備をこれまで以上に知ってもらい、安心して製品を使っていただけるよう工夫しています。



<https://www.mirai-kosen.jp/>

… 価値創造の源泉 …

ES&H & SDGs

当社グループは“社会のあるべき姿”と“人間のあるべき姿”の実現に向けて、ESG(社会・環境・ガバナンス)に加え、H(Human=人材)を企業活動における重要な視点として位置付けています。私たちは常に未来を見つめる広い視野を持ち、SDGs(持続可能な開発目標)の実現、そして社会全体の課題解決に貢献する企業であり続けます。

E nvironment

環境への配慮

7 エネルギーを効率的に
利用する

11 住み続けられる
まちづくりを

12 つくる責任
つかう責任

13 気候変動に
具体的な対策を

14 海の豊かさ
を守ろう

15 陸の豊かさ
を守ろう

17 パートナシップで
目標を達成しよう

👉 P.37~

S ociety

地方創生
— 社会の一員としての責任 —

4 質の高い教育を
みんなに

9 産業と技術革新の
躍進をつくらう

10 人や国の不平等
をなくそう

11 住み続けられる
まちづくりを

15 陸の豊かさ
を守ろう

16 平和と公正を
すべての人に

17 パートナシップで
目標を達成しよう

👉 P.39~

H uman

人材戦略

3 すべての人に
健康と福祉を

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

8 働きがいも
経済成長も

17 パートナシップで
目標を達成しよう

👉 P.41~

サステナビリティ推進体制

基本方針

前田工織グループは、人と技術を“混ぜる”ことで新たな価値を創造し、社会課題の解決と持続可能な社会を実現します。

サステナビリティ
委員会

- 〈役割〉
- 基本方針の立案
 - サステナビリティ課題の認識、取り組み目標の立案、進捗確認や評価(課題の例:気候変動対応、社会貢献、ダイバーシティ、ガバナンスなど)
 - リスク管理委員会、コンプライアンス委員会との連携
 - 上記事項の取り組みについて、取締役会への報告・提言

〈構成〉



●SDGsパートナー制度への登録について

当社はSDGsの達成に向けて積極的に取り組む企業として、みなどSDGsパートナー、ふくいSDGsパートナーに登録されています。





環境への配慮

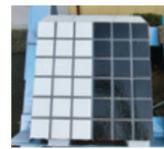
当社グループでは、環境方針の策定及び環境に配慮した事業活動を通じて、持続可能な地球と豊かな社会の創造に貢献する取り組みを進めています。また、企業における気候変動への対応はますます重要性を増しており、当社グループも積極的に取り組んでいきます。

カーボンニュートラルなモノづくり

エコ製品！

（株）セブンケミカルの外壁防水材

●水性セブンスシーラーI・水性セブンストップ
セブンケミカルが製造・販売する透明塗膜防水材の水系塗料であり、耐久性・防水性はもちろん、塗料が乾くときに発生する有機溶剤（温室効果ガスのもと）が発生しない、環境に優しい製品です。水系塗料ならではの嫌な臭いも発生しにくいという特性があります。



●セブンチタニック
本製品は、表面に付着した汚れを分解し、雨水などの力で洗い流す効果「セルフクリーニング機能」を発揮させる外壁用コーティング材です。自然エネルギーである太陽光によって発生する光触媒から「セルフクリーニング機能」が生まれます。太陽光発電などの分野でも使われており、自然や環境に優しい製品です。



BBSジャパン(株)の自動車ホイール

BBSジャパンでは、環境への負担が少ない再生可能エネルギー「グリーンエネルギー」を使用して作られたグリーンビレット*1を積極的に使用してホイールを製造・販売しています。また、ホイールの切削途中で発生する切りくずをリサイクルしたビレットや、REPLACEサービス*2にて返却されたホイールのリサイクル利用を実現したホイールを提供しています。



*1 ビレット…アルミ合金の塊。ホイールとして押し出し、形作る前の材料となるもの
*2 REPLACEサービス…損傷したホイールを、サービス価格にて新品と交換するサービス

第4回エコプロアワード 奨励賞受賞 完全分解で持続可能な自然を育てる「植物由来の植生シート」

地球温暖化対策・生物多様性・資源の有効利用など多くの観点から、当社が取り扱う植生シートのうち、環境配慮型の3つのシリーズが第4回エコプロアワード 奨励賞を受賞しました。



- | ストローシリーズ | ストローキャッチャーシリーズ | フルボシリーズ |
|--|--|--|
| ワラ素材のシート肥料入りの袋を取り付け、金網で山の斜面などに固定する「金網付き植生シート」。 | 周辺に自生する植物の種子を活用し、地域に合った植生を目指す「郷土種定着型植生シート」。立体的な構造のネットが、飛来する種子をキャッチして緑化を促進。 | 植生シートに肥料の吸収効率を向上させるフルボ酸を配合させ、植物の育成を活性化する生育促進型。 |

VOICE

前田工織 開発技術部
環境資材グループ
服部 浩崇

これまでは早期に、低価格でのり面を保護・緑化する方法の1つとして、植物が自然に植生するまでの間、物理的に保護するためのプラスチックや化学繊維の活用が主流でした。しかし、大規模自然災害などの被害を受けた国立公園などの自然公園では、恒久的な自然回復が望まれます。生態系保全の観点からも、製品そのものに自然環境への還元性が求められており、こうした課題解決のために環境負荷のない植物由来の緑化製品を開発しました。本製品はワラ・ジュート・ヤシなどを原料としており、製造時に化石資源を使用しません。また植生という役目を終えた後は、生分解によって土に還り、地球に優しい成分へと変わる持続可能な製品です。

太陽光発電システムの利用

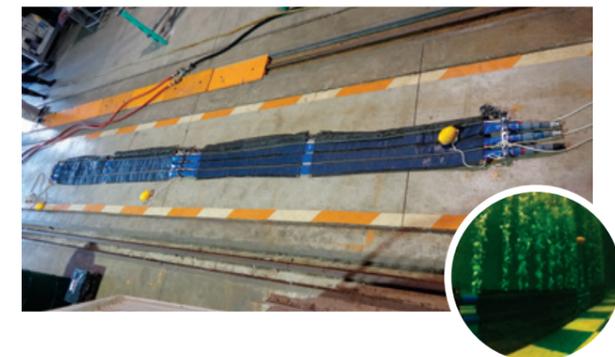
前田工織本社第一工場とBBSジャパン四日市工場に自家消費型太陽光発電設備を導入しました。太陽光パネルを計2,240枚設置し、一般家庭95軒分の電気使用量に相当する年間690MWhの発電を見込んでいます。これは2工場の年間電気使用量の7%に相当し、344tのCO₂排出量削減につながります。2024年までに1,670t削減（前田工織 福井本社・坂井工場、BBSジャパン四日市工場の3工場の電気使用量の約24%）を目指し、自然エネルギーの活用に取り組んでいます。



軽石対策の技術開発 バブルフェンス工法

特許取得済み

バブルフェンス工法は、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所と前田工織で共同開発された工法です。もともとは海で油濁の拡散を防止するオイルフェンスと併用して、油を特定の場所に集めて一気に回収することを目的に開発されました。昨今、軽石漂着問題が発生し、油と同じ浮遊物の回収ということで、軽石の回収に活用可能な技術として着目しています。バブルフェンスが作り出す気泡によって、海面に漂う浮遊物を一定の場所へ集め、効率的に軽石を回収できる方法として、実用化に向けて実験を進めています。



関連ページ P.19-20 特集1 社会課題と前田工織グループ

工場における環境への取り組み

廃棄物削減

リサイクル原料使用製品

河川護岸材	排水材
<p>エコ黒原系使用</p> <p>ボトルユニット パワフルユニット ECO落石ネット</p>	<p>リサイクルPET使用</p> <p>モドレン エンドレンマット</p>
<p>景観資材</p> <p>100%リサイクル原料 25%リサイクル原料</p> <p>ブラ擬木 ハイブロック Kankyo-woodII</p>	<p>〈廃棄物リサイクル率〉 ※産業廃棄物・残糸等</p> <p>36.48% → 50% (目標)</p>

地方創生 - 社会の一員としての責任 -



当社グループは地域密着型の企業として、社会、そして人と「真っ直ぐ」向き合いながら、暮らしに必要なインフラというフィールドで、安心・安全で豊かな社会づくりと地方活性化に向けた取り組みを進めています。

M&A等による強化

当社では、M&A等を活用し、様々な問題を抱える地方のモノづくり企業を当社グループの経営資源と「混ぜる」ことで、互いの既存事業を強化・成長に導いています。雇用を維持しながらWin-Winの関係を築くことは、地方の活性化にもつながっています。

関連ページ [P.7-8 成長の軌跡とこれからの挑戦](#)

地方の活性化に向けた活動 — 地方から全国を元気にしたい —

DXを用いた地域活性化

国立大学法人長岡技術科学大学における、国際的な実践的工学教育システムの構築を目指した技術革新フロンティア教育センター整備事業にて、当社の社員が同センター教員(特任教授)として就任しました。本事業は、若手人材が複数の学術分野を横断しながらビジネスの素養を学ぶもので、企業経験を有するセンター教員が、モノづくり全体を俯瞰できる人材を育てるための実践的な工学教育を行っています。将来的に同大学から地域企業のリーダーとして活躍できる人材が多く輩出されると期待されます。



前田工織
業務企画部
大平 竜弘

Q このプロジェクト事業のどんなところに魅力を感じましたか？

私は、関東の企業で仕事をしましたが、地元の福井や北陸を元気にしたいと思い今年春にUターンしました。その中で、地方の大学で、未来の若手と、学部横断(クロスステック)に関われることに魅力を感じています。

Q 実際の授業を通して日本の未来を担う学生に伝えたいことは？

これまでの経験から、どんなピンチも、自分を飛躍させるチャンスと思って、チャレンジし続けることの大切さを、学生に伴走しながら、しっかり伝えていきたいと思っています。

マイスター・ハイスクール事業

文部科学省では、次世代の職業人材の育成を目的として、産業界と専門高校が一体となって教育カリキュラムの刷新や実践を行う「マイスター・ハイスクール事業」を推進しています。

この事業の一環として学校のマネジメント担当者「マイスター・ハイスクールCEO」を企業から招き取り組みが行われており、福井県で選ばれた福井県立坂井高等学校のCEOとして当社のOB社員が就任しています。

坂井高等学校の生徒たちは地元を中心に企業訪問し、地域産業について学んでいます。地域に出て、実際に見たり触れたり、住民の方との交流を経て、将来地域企業人として輝いて生きていくための貴重な学びを得ています。



第7回 福井ベンチャーピッチ (主催: 公益財団法人ふくい産業支援センター)

福井ベンチャーピッチとは、VC(ベンチャーキャピタル)、金融機関等の前でセールスプレゼンを通じた、成長意欲の高い福井発ベンチャー企業へのさらなる事業拡大への機会の提供を目的としたイベントで、社長の前田がアドバイザーとして出席しています。



工場見学 / インターンシップ

小中高生を中心とした生徒たちに工場見学や職場体験で製造の現場を実際に見ていただくことは、ただ会社や製品を知ってもらうだけでなく、子ども達が夢に向かって成長する中で、学校では得ることのない様々な知識を習得すること、さらには地域産業の担い手を育てることにつながります。

企業にとっても自社の認知度や理解を深めてもらい地域の皆様に安心をお届けする良い機会となっており、当社グループではこうした地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。



福井県教員の企業体験研修

教職経験10年程度の中堅教員を対象に、教育界と産業界の相互理解を目的とした「福井県教員の企業体験研修」が前田工織 福井本社にて行われました。企業の経営理念やマネジメント、魅力について理解を深めていただきました。

企業研修での体験を子どもたちへ伝えていただくとともに、教職以外の業種で体験活動を行うことによって視野が広がり、多様なものの見方や考え方を身につけることで、新しい発想や視点を教育活動に活かしていただきます。



寄付 / 社会貢献

- 自治体、医療機関、教育機関への寄付 (マスク、アイソレーションガウン)
- 災害地域への土木資材の寄付
- 防犯・交通安全啓蒙(キッズ用防犯ブザー)
- スポーツ振興 (福井ユナイテッドFC、福井丸岡RUCK、福井国体、世界水泳選手権(福岡市))
- 日本赤十字社への寄付
- 公益財団法人NHK交響楽団への寄付
- 福井高専地域連携アカデミアへの寄付
- ふくい中学生アートリンピックへの協賛
- IR活動報告(IR説明会、株主総会)
- 公益財団法人前田工織財団の運営 **Focus**

Focus

● 財団活動 <新規奨学金事業の開始2022年度奨学生等の募集—高校生が対象に—>

2015年に設立した公益財団法人前田工織財団は、2022年度で第8期を迎えました。これまで現役大学生・大学院生を採用し、総勢91名の奨学生に奨学金を給付しています。これに加えて今期より、高校3年生を対象に採用し、大学4年間にわたり給付する「予約型奨学金」事業を新たに開始しました。前田工織財団は、これからも未来ある若者の学びを支援する活動を進めていきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
新規採用者数(名)	8	7	16	16	13	16	15
総給付者数(名)	8	15	27	34	33	32	31
奨学金給付額(万円)	288	540	972	1,224	1,584	1,536	1,488

Focus

● 世界水泳選手権(福岡市)

第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会が、2023年7月に22年ぶりに福岡市で開催されます。この一大イベントを福岡市と一緒に盛り上げるべく寄付を行いました。





人材戦略

人材育成を企業活動全体に関わる重要なものと認識し、世の中の急速かつ急激な変化に対応できる、実行力のある社員の育成に取り組んでいます。また、社員の健康維持・増進に積極的に関わっていくことで、健康で働きがいのある職場づくりを進めています。

社内研修制度

土木のプロフェッショナルを目指す！「土木の寺子屋」

2020年より、当社では営業・開発部門の若手・中堅社員を対象に年間を通して「土木の寺子屋」という研修会を実施しています。当社で長年にわたり営業・開発分野に従事されてきたOB社員を講師に招き、全国にいる社員にもオンラインで配信を行っています。社員それぞれのレベルに応じた土木の基礎知識やたくさんの経験談を聞くことで、成功への道を学ぶ場となっています。



当初は、土質力学等の知識や私の経験、特に土木の失敗事例を伝えられればと始めた研修でした。しかし、私の情報量に限界があると感じ、中堅社員の参加者に失敗事例や知識をまとめてもらったところ、貴重な168件の事例(宝物)が集まりました。次のステップでは、これらを共有化し、どうすれば「失敗をオープンにし、失敗から学習する、進化する」組織に

なれるのかを考える、実行する場を提供できればと思っています。

VOICE
-講師-



OB社員
横田 善弘

主に設計業務を担当するエンジニアリングデザイングループでは、パソコンに向かって仕事をすることが多く、現場の生の声をなかなか聞けません。

ですが、土木の寺子屋は、先輩方の失敗談や対処方法、失敗を防ぐための対策を学ぶことができ、より良い設計を行うにはどうすべきか、何に注意すべきかといった、マニュアルだけではわからない実際の声を聞くことができる貴重な時間です。

VOICE
-受講社員-



前田工織
営業推進部
エンジニアリング
デザイングループ
大西 寧音

若手社員フォローアップ制度の創設

若手社員の仕事へのモチベーションの向上、同期・異職種間のコミュニケーションの活性化を目的とし、今年度新たに若手社員フォローアップ制度を創設しました。新卒入社5年目までの社員や中途入社で30歳以下の社員を対象とし、フォローアップ面談の実施や、同期ごと、職種ごとに座談会(アドバイザーも参加)を実施します。さらに、これまでも行っていた新卒入社2年目の社員を対象とした集合研修も引き続き実施していきます。

グローバル人材の登用

当社グループでは、国籍や性別を問わず多様な人材を採用・登用しており、国内外で活躍しています。中でも、ベトナムにはグループ会社MAEDA KOSEN VIETNAMがあり、アジアを中心としてグローバルに事業を展開するための重要拠点と位置付けています。将来の同社における幹部社員となることを期待して、ベトナム国籍の社員を採用し、まずは日本の前田工織本社において、数か月～1年程度、実際の業務に携わりながら経験を積み、その後ベトナムに赴任し、工場管理や営業、設計業務などに携わります。慣れ親しんだ故郷の地で、日本での経験を活かし活躍することができます。今後も多様な人材が混ざり合うことでイノベーションが生まれることを見据え、積極的に多様な人材の採用・育成に努めてまいります。



正社員・管理職に占める女性の割合

(2022年6月30日時点)

正社員	全数(男女計)	404名	
	うち女性	83名	20.5%
管理職 (課長職以上)	全数(男女計)	142名	
	うち女性	3名	2.1%

※前田工織単体

社内表彰制度

MAEDA AWARD

グループ全社を対象に、社員の良い取り組みを皆で「賞賛・感謝」し、その良い取り組みから「学ぶ」をテーマに2018年度よりスタートしました。2022年度より未来のアグリにおいても、本制度とリンクさせた「AGRI AWARD」をスタートさせており、今後も各グループ会社に展開する予定です。

製造部改善発表会

製造現場での生産性向上・改善について、グループ全社を対象に優秀な活動の表彰を毎年行っています。2022年5月に開催された発表会では、総勢120名が会場とオンラインのハイブリッドで参加。役員の前で若手社員もプレゼンを行い、経験を積み場となっています。

健康経営®

健康経営の目的

会社が、従業員の健康維持・増進に積極的に関わり、従業員のパフォーマンス向上を実現することで、前田工織が、より社会の安心・安全に貢献する企業に成長し、さらなる業績拡大を達成することを目的としております。

推進体制



健康経営目標

健康経営を推進するにあたり、下記の数値目標を掲げています。

- 〈2022年 健康経営目標〉
1. 喫煙者ゼロ
(喫煙率実績: 2017年12月末 28.9% → 2021年11月調査 0% ※就業時間内)
 2. 定期健康診断・再検査・要治療 受診率100%
(前田工織 2020年4月~2021年3月実績: 91.3%)
 3. 健康イベント参加率80%
(参加率実績: 2021年春: 59%、2021年秋: 64%)

前田工織は、経済産業省が主催する「健康経営優良法人2022」に認定されました。これにより3年連続の認定となります。

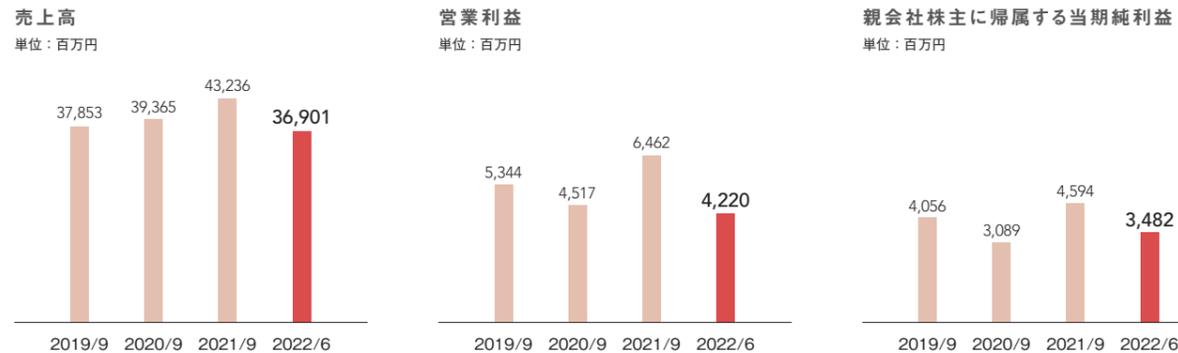


財務・非財務サマリー

		2012年9月期	2013年9月期	2014年9月期	2015年9月期	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期	2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期	2022年6月期
損益状況												
売上高	(百万円)	16,469	19,906	24,571	26,774	29,888	31,255	34,613	37,853	39,365	43,236	36,901
売上原価	(百万円)	10,497	12,434	15,205	16,364	18,719	19,752	21,468	23,844	25,616	27,302	24,841
販売費及び一般管理費	(百万円)	4,551	5,059	6,080	6,988	7,320	7,436	8,052	8,665	9,231	9,472	7,838
営業利益	(百万円)	1,420	2,412	3,286	3,421	3,848	4,066	5,092	5,344	4,517	6,462	4,220
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	1,176	1,521	2,146	2,577	2,871	3,106	3,709	4,056	3,089	4,594	3,482
財政状態												
総資産	(百万円)	17,715	22,453	28,379	32,946	34,156	36,519	41,033	54,021	58,468	64,267	68,760
純資産	(百万円)	11,363	14,008	19,442	21,767	23,884	26,598	29,785	31,152	33,561	37,783	41,644
キャッシュ・フローの状況												
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	583	868	3,027	2,201	3,773	4,661	5,153	3,857	5,181	6,818	1,682
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	97	△553	△5,651	△3,397	△2,571	△1,223	△4,482	△9,330	△5,669	△4,347	△3,284
フリーキャッシュ・フロー	(百万円)	681	314	△2,624	△1,195	1,201	3,437	671	△5,473	△488	2,470	△1,601
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	670	2,191	1,393	2,446	△2,592	△800	△736	8,903	1,196	△440	1,097
関連情報												
設備投資額	(百万円)	791	887	888	2,312	2,943	1,418	5,480	6,013	5,907	3,104	3,876
減価償却費	(百万円)	442	500	811	1,091	1,472	1,423	1,539	1,569	2,452	3,071	2,791
研究開発費	(百万円)	9	12	119	232	237	283	257	365	688	809	472
指標												
売上高営業利益率	(%)	8.6	12.1	13.4	12.8	12.9	13.0	14.7	14.1	11.5	14.9	11.4
ROE(自己資本利益率)	(%)	10.8	12.0	12.8	12.5	12.6	12.3	13.2	13.4	9.6	12.9	8.8
ROA(総資産利益率)	(%)	8.6	12.7	13.1	11.7	11.3	11.9	13.3	11.3	8.2	10.4	6.6
EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却)	(百万円)	1,862	2,969	4,281	4,799	5,572	5,737	6,875	7,145	7,189	9,616	7,024
1株当たり当期純利益	(円)	46.86	52.50	71.56	79.99	89.11	96.37	115.08	127.28	98.17	145.85	110.46
1株当たり純資産	(円)	451.27	479.31	603.31	675.45	741.09	825.18	924.03	990.49	1,066.10	1,199.05	1,320.44
1株当たり配当金	(円)	7.0	7.0	8.0	10.0	16.0	16.0	18.0	20.0	20.0	24.0	26.0
配当性向	(%)	14.9	13.3	11.2	12.5	18.0	16.6	15.6	15.7	20.4	16.5	23.5

※決算期変更に伴い、2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間となります。

【財務】



【非財務】



連結財務諸表

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	FY2021 (2021年9月20日)	FY2022 (2022年6月30日)		FY2021 (2021年9月20日)	FY2022 (2022年6月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	13,099	12,808	支払手形及び買掛金	1,358	1,831
受取手形及び売掛金	9,411	—	電子記録債務	2,031	1,675
受取手形、売掛金及び契約資産	—	7,685	短期借入金	—	984
電子記録債権	3,569	3,344	1年内返済予定の長期借入金	328	356
商品及び製品	3,974	5,888	未払金	1,726	1,523
仕掛品	1,642	2,220	リース債務	410	421
原材料及び貯蔵品	2,674	4,160	未払法人税等	1,492	406
その他	315	1,373	賞与引当金	866	846
貸倒引当金	△3	△2	設備関係支払手形	64	38
流動資産合計	34,684	37,479	その他	672	428
固定資産			流動負債合計		
有形固定資産			8,950		
建物及び構築物	11,422	11,700	固定負債		
減価償却累計額	△5,255	△5,655	新株予約権付社債	12,031	12,022
建物及び構築物(純額)	6,166	6,045	長期借入金	453	1,868
機械装置及び運搬具	17,203	18,163	長期未払金	613	613
減価償却累計額	△10,759	△12,153	リース債務	3,212	2,812
機械装置及び運搬具(純額)	6,444	6,009	繰延税金負債	38	53
土地	4,128	4,440	役員退職慰労引当金	34	41
リース資産	3,478	3,478	退職給付に係る負債	1,101	1,145
減価償却累計額	△500	△868	その他	47	46
リース資産(純額)	2,977	2,609	固定負債合計	17,532	18,603
建設仮勘定	1,646	3,862	負債合計		
その他	3,379	3,708	26,483		
減価償却累計額	△2,816	△3,098	純資産の部		
その他(純額)	562	609	株主資本		
有形固定資産合計	21,926	23,577	資本金	3,472	3,472
無形固定資産			資本剰余金	3,431	3,447
ソフトウェア	102	116	利益剰余金	32,694	35,357
ソフトウェア仮勘定	0	0	自己株式	△1,846	△1,778
商標権	608	559	株主資本合計	37,752	40,497
技術資産	89	52	その他の包括利益累計額		
その他	474	516	その他有価証券評価差額金	△91	602
無形固定資産合計	1,275	1,245	為替換算調整勘定	44	479
投資その他の資産			退職給付に係る調整累計額	△0	△3
投資有価証券	3,983	5,087	その他の包括利益累計額合計	△46	1,078
関係会社長期貸付金	120	120	新株予約権	78	68
繰延税金資産	919	635	純資産合計	37,783	41,644
その他	1,358	614	負債純資産合計	64,267	68,760
投資その他の資産合計	6,381	6,457			
固定資産合計	29,582	31,280			
資産合計	64,267	68,760			

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	FY2021 (自2020年9月21日 至2021年9月20日)	FY2022 (自2021年9月21日 至2022年6月30日)		FY2021 (自2020年9月21日 至2021年9月20日)	FY2022 (自2021年9月21日 至2022年6月30日)
売上高	43,236	36,901	営業外費用		
売上原価	27,302	24,841	支払利息	76	77
売上総利益	15,934	12,059	固定資産除却損	22	169
販売費及び一般管理費			補修費用	265	239
荷造運搬費	1,803	1,737	その他	16	52
設計委託費	155	129	営業外費用合計	380	539
役員報酬	312	281	経常利益	6,378	4,360
給料及び手当	2,017	1,724	特別利益		
賞与引当金繰入額	522	515	関係会社株式売却益	—	488
退職給付費用	97	78	償却債権取立益	—	58
役員退職慰労引当金繰入額	6	3	負ののれん発生益	9	—
法定福利費	470	365	特別利益合計	9	546
旅費及び交通費	192	177	特別損失		
支払手数料	357	288	投資有価証券評価損	—	254
減価償却費	238	199	特別損失合計	—	254
その他	3,298	2,337	税金等調整前当期純利益	6,387	4,652
販売費及び一般管理費合計	9,472	7,838	法人税、住民税及び事業税	2,118	1,209
営業利益	6,462	4,220	法人税等調整額	△325	△39
営業外収益			法人税等合計	1,792	1,170
受取利息	0	1	当期純利益	4,594	3,482
有価証券利息	12	9	親会社株主に帰属する当期純利益	4,594	3,482
受取配当金	6	9			
為替差益	47	259			
受取保険金	55	245			
補助金収入	120	69			
保険解約返戻金	4	2			
固定資産売却益	3	31			
その他	46	50			
営業外収益合計	296	678			

【連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)】

(単位：百万円)

	FY2021 (自2020年9月21日 至2021年9月20日)	FY2022 (自2021年9月21日 至2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,818	1,682
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,347	△3,284
財務活動によるキャッシュ・フロー	△440	1,097
現金及び現金同等物に係る換算差額	57	212
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,087	△291
現金及び現金同等物の期首残高	11,002	13,089
現金及び現金同等物の期末残高	13,089	12,798

前田工織株式会社

創業 1918年(大正7年)
 設立 1972年(昭和47年)11月25日
 資本金 3,472百万円
 従業員数 404名(2022年6月30日現在)
 本社 東京本社
 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
 芝パークビルA館12F
 福井本社・本社工場
 〒919-0422 福井県坂井市春江町沖布目38-3
 電話番号 03-6402-3944(東京本社)
 0776-51-3535(福井本社)



▶ <https://www.maedakosen.jp/>

未来のアグリ株式会社

設立 1953年(昭和28年)12月24日
 資本金 60百万円
 従業員数 47名(2022年6月30日現在)
 本社 福島本社
 〒960-8204 福島県福島市岡部字内川原33-4
 札幌本社
 〒065-0019 北海道札幌市東区北十九条東4-2-10
 電話番号 024-531-2711(福島本社)
 011-711-6136(札幌本社)



▶ <http://www.mirai-no-agri.jp/>

BBS BBSジャパン株式会社

設立 1971年(昭和46年)7月29日
 資本金 100百万円
 従業員数 260名(2022年6月30日現在)
 本社 高岡本社・工場
 〒933-0313 富山県高岡市福田六家525
 東京本社
 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
 芝パークビルA館12F
 電話番号 0766-31-0021(高岡本社・工場)
 03-6402-4090(東京本社)



▶ <https://bbs-japan.co.jp/>

前田工織キャピタル合同会社

設立 2017年(平成29年)10月17日
 本社 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
 芝パークビルA館12F

MAEDAKOSEN VIETNAM CO.,LTD.

設立 2011年(平成23年)12月7日
 資本金 5,000,000 USD
 従業員数 252名(2022年6月30日現在)
 本社 Lot B1-1, Dai Dong Hoan Son Industrial park,
 Hoan Son commune, Tien Du district, Bac Ninh
 province, Vietnam
 (ベトナム社会主義共和国バクニン省)
 電話番号 +84-222-3848-240

未来テクノ株式会社

設立 2015年(平成27年)6月12日
 資本金 30百万円
 従業員数 38名(2022年6月30日現在)
 本社 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
 芝パークビルA館12F
 電話番号 03-6402-5915(東京本社)



▶ <https://www.mirai-techno.jp/>

沖縄コーセン株式会社

設立 2019年(令和元年)9月26日
 資本金 30百万円
 従業員数 6名(2022年6月30日現在)
 本社 〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1-10-16
 沖縄バスビル2F
 電話番号 098-860-3404

BBS Motorsport GmbH

設立 2011年(平成23年)11月
 資本金 300,000 ユーロ
 従業員数 54名(2022年6月30日現在)
 本社 Im Muehlegruen 10 77716 Haslach i. K. Germany
 (ドイツ連邦共和国バーデン・ヴェルテンベルク州)
 電話番号 +49 (0)78 32-960 95-00



▶ <https://bbs-motorsport-gmbh.com/>

株式会社 釧路ハイミール

設立 1984年(昭和59年)5月8日
 資本金 43百万円
 従業員数 20名(2022年6月30日現在)
 本社 〒084-0917 北海道釧路市大楽毛8-10
 電話番号 0154-57-8822



▶ <https://www.kushiro-highmeal.co.jp/>

株式会社 セブンケミカル

設立 1971年(昭和46年)7月9日
 資本金 50百万円
 従業員数 27名(2022年6月30日現在)
 本社 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
 芝パークビルA館12F
 電話番号 03-6809-2597(本社)



▶ <https://www.seven-chemical.co.jp/>

未来コーセン株式会社

設立 1994年(平成6年)1月25日
 資本金 30百万円
 従業員数 107名(2022年6月30日現在)
 本社 〒919-0101 福井県南条郡南越前町湯尾10-10-2
 電話番号 0778-45-2325



▶ <https://www.mirai-kosen.jp/>

前田工織株式会社

Twitter @maedakosengroup
<https://twitter.com/maedakosengroup>



前田工織チャンネル

YouTube @maedakosenchannel
<https://www.youtube.com/@maedakosenchannel>



前田工織 不織布営業部

Instagram @maedakosen_fushokufu
https://www.instagram.com/maedakosen_fushokufu



BBS JAPAN -FORGED WHEEL

Instagram @bbs_japan_official
https://www.instagram.com/bbs_japan_official



BBS JAPAN -Forged Wheel- 鍛造ホイール

Facebook @BBSwheel.jp
<https://www.facebook.com/BBSwheel.jp>



#前田工織グループ SNSのご紹介

土木・建設資材だけではない前田工織グループの魅力を発信しております。ぜひフォローお願いします!

\ Follow me! /



MAEDAKOSEN

